

## インストールガイド (施工業者向け)

### データアーカイバー

### 品番 LB-DH8 シリーズ



このたびは、パナソニックデータアーカイバーを導入していただき、まことにありがとうございます。

本書では、データアーカイバーの設置手順について記載しています。設置前の準備、ラックへの設置、接続については施工業者に依頼してください。

詳細な操作方法などについては、「オペレーターガイド」をお読みください。

ご使用前に「規定と安全に関するご注意 / 製品概要 / 免責事項」を必ずお読みいただき、正しく安全にお使いください。

データアーカイバー LB-DH8 シリーズとは以下のものを総称しています。

製品名		品番
ベースモジュール (型名: LB-DH80)	SAS インターフェースモデル	LB-DH80A0G
	iSCSI インターフェースモデル	LB-DH80S0G
	FC インターフェースモデル	LB-DH80F0G
ボトムモジュール (型名: LB-DH81)		LB-DH81Z0G
拡張モジュール (録再ユニットなし) マガジン拡張ユニット (型名: LB-XH82) と制御ユニット (型名: LB-XC82)		LB-DH82Z0G
拡張モジュール (録再ユニットあり) マガジン拡張ユニット (型名: LB-XH82) と 録再ユニット (型名: LB-XD82)	SAS インターフェースモデル	LB-DH82A0G
	iSCSI インターフェースモデル	LB-DH82S0G
	FC インターフェースモデル	LB-DH82F0G

# 目次

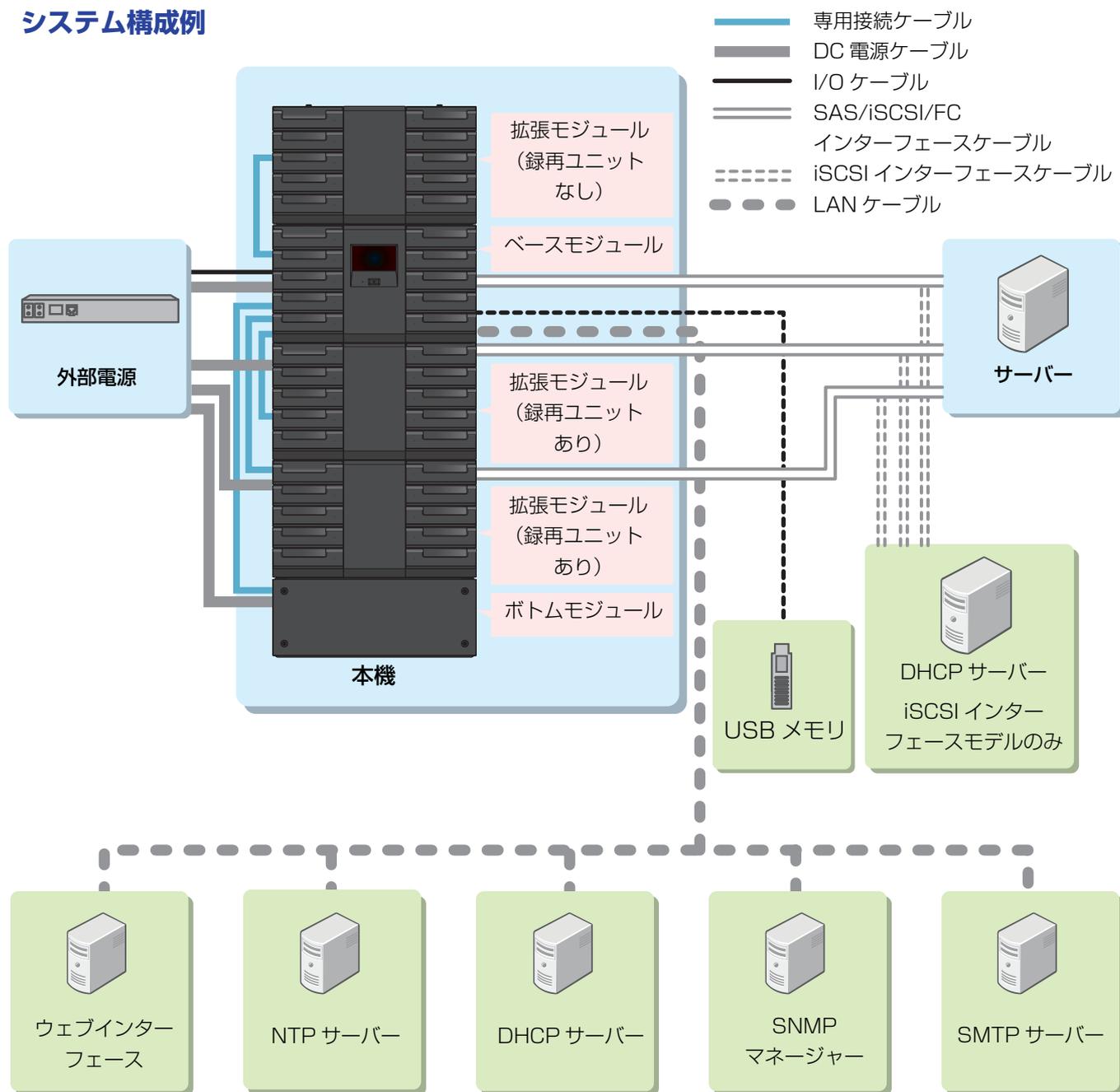
システム構成.....	3	接続.....	27
各部の名称 .....	5	専用接続ケーブルの接続 (ベースモジュール / ボトムモジュール / 制御ユニット / 録再ユニット) .....	27
ベースモジュール (LB-DH80) 前面パネル .....	5	ホストインターフェースの接続 (ベースモジュール / 録再ユニット) .....	28
ベースモジュール 背面パネル .....	6	LAN の接続 (ベースモジュール) .....	28
ベースモジュール 天面 .....	7	外部電源の接続 (ベースモジュール / ボトムモジュール / 録再ユニット) .....	29
ベースモジュール 側面パネル .....	7	本機から外部電源を取り外す場合 .....	31
ボトムモジュール (LB-DH81) 背面パネル .....	8	設定.....	32
マガジン拡張ユニット (LB-XH82) 前面パネル .....	8	起動 .....	32
制御ユニット (LB-XC82) 背面パネル .....	9	操作パネルでの基本操作 .....	33
録再ユニット (LB-XD82) 背面パネル .....	10	数値、文字の入力 .....	35
制御ユニット / 録再ユニット搭載 マガジン拡張ユニット 側面パネル.....	11	画面の基本構成 .....	36
設置前の準備.....	12	初期設定項目 .....	37
サーバーの準備.....	12	設定必須項目の設定方法 .....	38
同梱品 .....	12	パネルメニュー体系.....	41
梱包箱開梱 .....	13	その他.....	42
ラックの準備 .....	14	静電気対策.....	42
ボトムモジュールの準備 .....	16		
ベースモジュールおよび 拡張モジュールの準備 .....	16		
設置.....	18		
ラックへの設置.....	18		
昇降ラックの連結.....	19		
増設.....	22		
制御ユニット、録再ユニットの 取り付け .....	25		
制御ユニット、録再ユニットの 取り外し .....	25		
ラックからの取り外し .....	26		

# システム構成

本機は下記のような構成でご使用いただけます。

- 使用する機能に合わせた接続が必要です。

## システム構成例



## 必ず接続が必要なもの（実線、二重線部）

ベースモジュール / ボトムモジュール / 制御ユニット / 録再ユニット：制御ポート使用

外部電源：電源コネクタと I/O ポート（動作確認済み外部電源の一部機種のみ）使用

サーバー：ホストインターフェースポート使用

## 必要に応じて接続するもの（点線部）

### LAN ポート使用

ウェブインターフェース（ウェブインターフェースを使用する PC）：ウェブインターフェースを使用する場合

NTP サーバー：タイムサーバーを使用する場合

DHCP サーバー：LAN ポートで DHCP を使用する場合

SNMP マネージャー：SNMP を使用する場合

SMTP サーバー：電子メール通知を使用する場合

### iSCSI ホストインターフェースポート使用（iSCSI インターフェースモデルのみ）

DHCP サーバー：iSCSI ホストインターフェースポートで DHCP を使用する場合

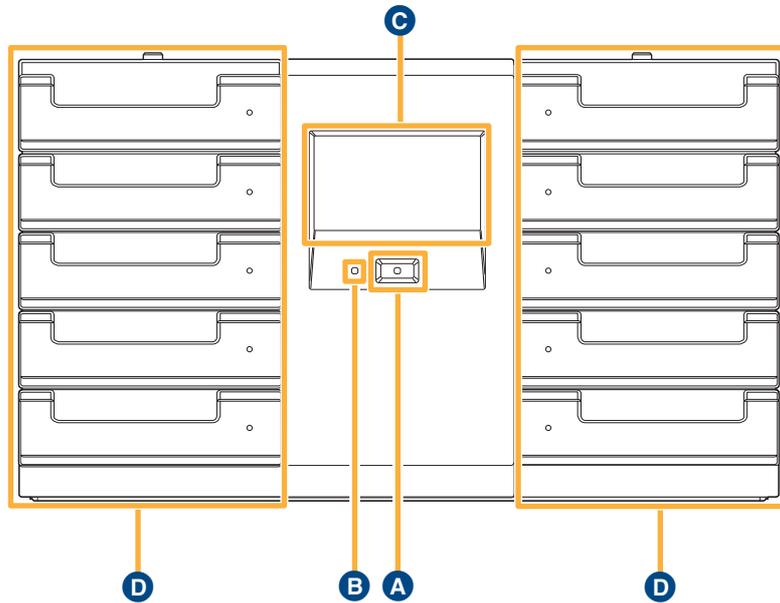
### USB ポート使用

USB メモリ：下記機能を使用する場合

- 操作パネルからの設定の保存・復帰
- 操作パネルからのソフトウェアの更新
- 操作パネルからのログの取得

# 各部の名称

## ベースモジュール (LB-DH80) 前面パネル



### A 電源ボタン

ボタンを押すと本機の電源が入り、LED が緑色に点灯します。

電源を切るには、ボタンを押して操作パネルの選択メニューで「YES」を選んでください。

- 操作パネルまたはウェブインターフェースで電源を切ることもできます。下記の順番に選択してください。  
「Manage」→「Shutdown」→「Shutdown」  
本機と接続しているサーバーの電源を切るか、サーバーから本機への指令を停止したあと、本機の電源を切ってください。データ消失、サーバー停止などの障害を起す可能性があります。
- 背面に電源ボタンはありません。
- 本機の電源を切っても、Wake On LAN 機能のため回路の一部に電源が入ったままとなります。

### B インフォメーション LED

エラーや警告が発生したことをお知らせします。

- 赤色に点灯時は、操作パネルを操作し、エラー・警告などのメッセージを確認してください。  
エラー発生の場合は、エラー状態を解除すると消灯し、警告発生の場合は、操作パネルのポップアップ表示を閉じると消灯します。

### C 操作パネル

4.3 インチ感圧式タッチパネルディスプレイです。

本機の状態・設定の確認、各種設定などの操作を行います。(33 ページ)

### D マガジンドロワー

左右に各 5 つのマガジンドロワーを備えており、最大 76 本のマガジンを格納することができます。

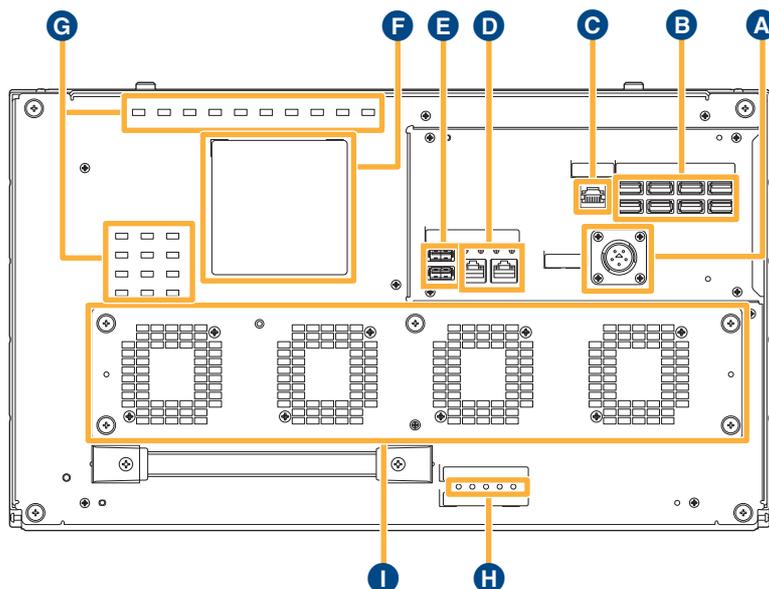
- 通常、マガジンドロワーはロックされていますので、開ける場合は操作パネルまたはウェブインターフェースより、ロックを解除してください。  
詳しくは、オペレーターガイドの「マガジンとマガジンドロワーの取り扱い方法」を参照してください。
- 設置準備時のみ、手動でロックを解除する必要があります。詳しくは、「ベースモジュールおよび拡張モジュールの準備」(16 ページ)を参照してください。

操作パネルは指でタッチして操作してください。強く押ししたり、シャープペンシルやドライバーのように先のとがったものや硬いもので押さないでください、タッチパネルディスプレイが破損するおそれがあります。

### お知らせ

- 画面に画素欠けや常時点灯する点があっても故障ではありません。

## ベースモジュール 背面パネル



### A 電源コネクタ

DC +24 V の電源を供給します。

- 電源ケーブルの取り外しは、**H** の LED5 が消灯していることを確認してから行ってください。

### B 制御ポート

ボトムモジュールや制御ユニット、録再ユニットと付属の専用接続ケーブルで接続します。

### C I/O ポート (RJ45)

動作確認済み外部電源の一部機種とのシリアル通信で使用します。

- LAN ポートではありません。

### D LAN ポート (RJ45)

本機の管理用に用いるポートです (左: LAN1、右: LAN2)。ウェブインターフェース、タイムサーバー、電子メール通知、SNMP を使用する場合、このポートへのネットワーク接続が必要です。

ポート上部の LED は下記を表します。

– 左 LED: LNK/ACT LED

LNK: 緑点灯

ACT: 緑点滅

– 右 LED: 1 Gbps/100 Mbps/10 Mbps LED

1 Gbps: 緑点灯

100 Mbps: 橙点灯

10 Mbps: 消灯

### E USB ポート

FAT16 または FAT32 フォーマットの USB メモリを接続してソフトウェアのアップデート、設定値の退避 / 復帰に使用します。

- 保守サービス専用のポートです。保守サービス以外の目的で使用しないでください。

### F 銘板

製品品番、定格、シリアル番号などが記載されています。

### G 通気孔

本機内部の空気を入れ換えます。

- この部分をふさがないでください。

### H LED

本機の動作状態を表示します。(一番左を LED1 とし、右へ順番に並んでいます。)

– LED 1 (CONTROLLER) / LED 2 (CHANGER) / LED 3 (DRIVE)

動作中: 緑点灯

停止中: 消灯

– LED 4 (INFORMATION)

操作パネルを確認する必要がある場合に、赤色に点灯します。確認する必要がない場合は消灯します。

– LED 5 (POWER)

通電中: 緑点灯

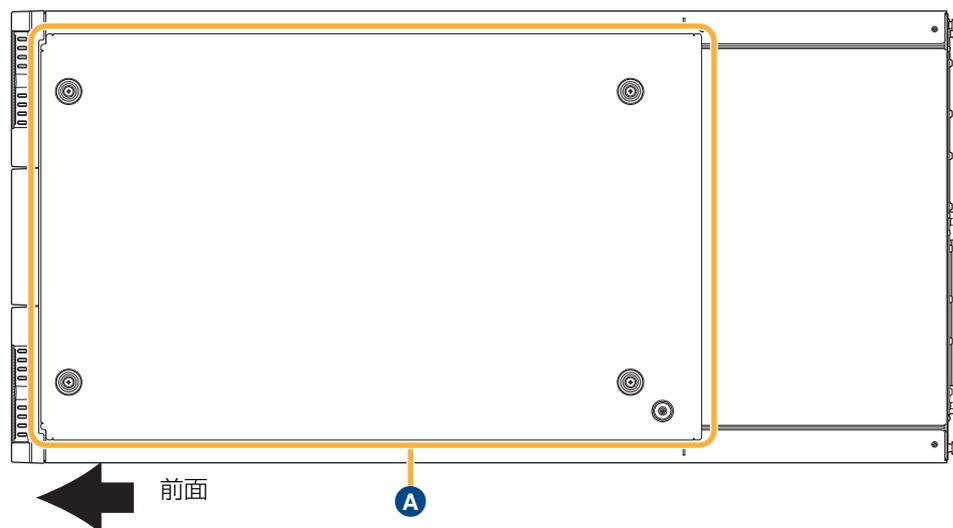
非通電: 消灯

### I ファン通気孔

ファン動作時に本機内部の空気を排気します。

- 通常ファン3個、冗長ファン1個の合計4個のファンが内蔵されています。
- この部分をふさがないでください。

## ベースモジュール 天面

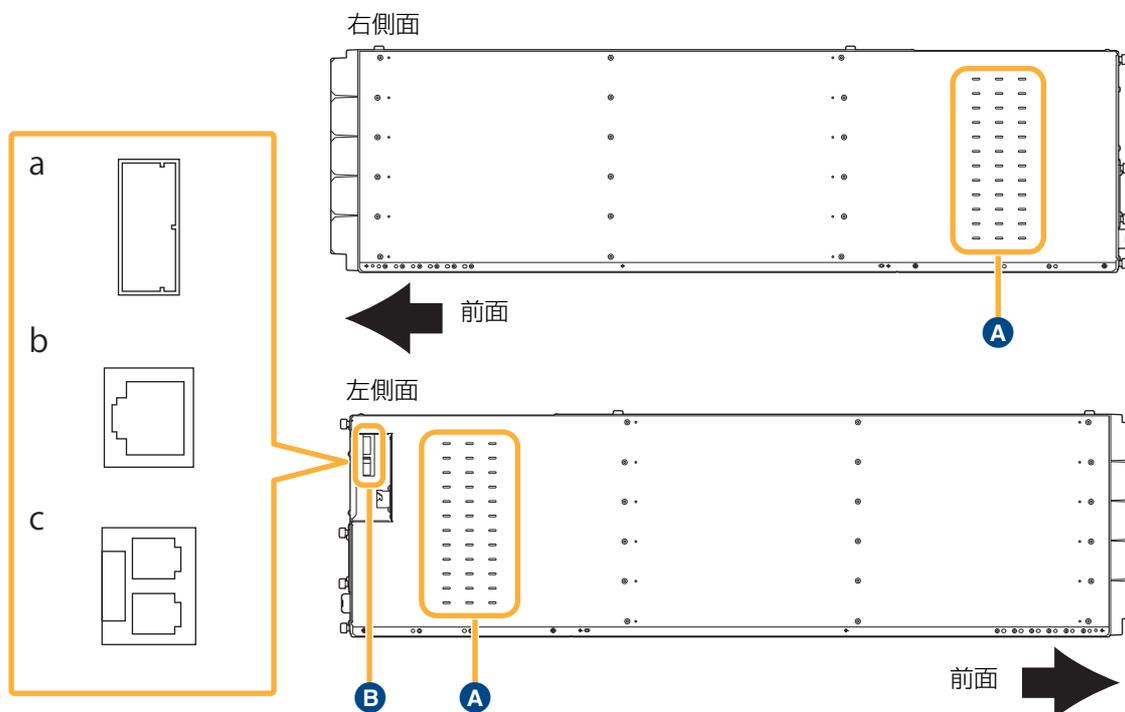


### A 天板

システムの最上段の天面パネルです。

- ベースモジュールに4本の手回しネジと1本のM3ネジで固定されています。ベースモジュールの上段にマガジン拡張ユニットを増設する場合、天板を取り外し、最上段のマガジン拡張ユニットに取り付けます。

## ベースモジュール 側面パネル



### A 通気孔

本機内部の空気を入れ換えます。

- この部分をふさがらないでください。

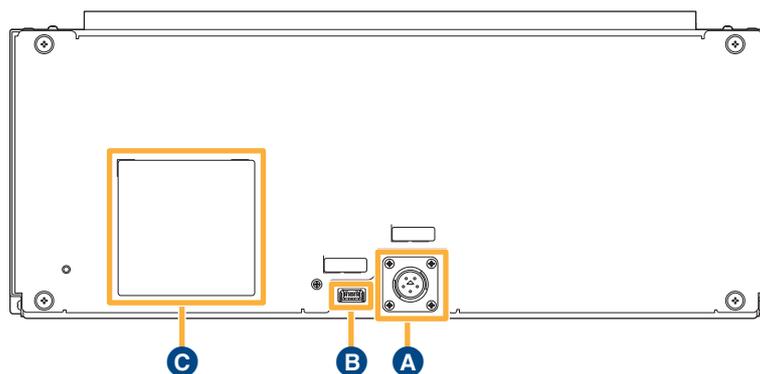
### B ホストインターフェースポート

データ転送に用いるポートです。

以下のインターフェースコネクタのどれか1種類を搭載しています。

- a: SAS インターフェースポート (コネクタ: SFF8088 Mini-SAS)
- b: iSCSI インターフェースポート (コネクタ: RJ45)
- c: FC インターフェースポート (コネクタ: LC)

## ボトムモジュール (LB-DH81) 背面パネル



### A 電源コネクタ

DC +24 V の電源を供給します。

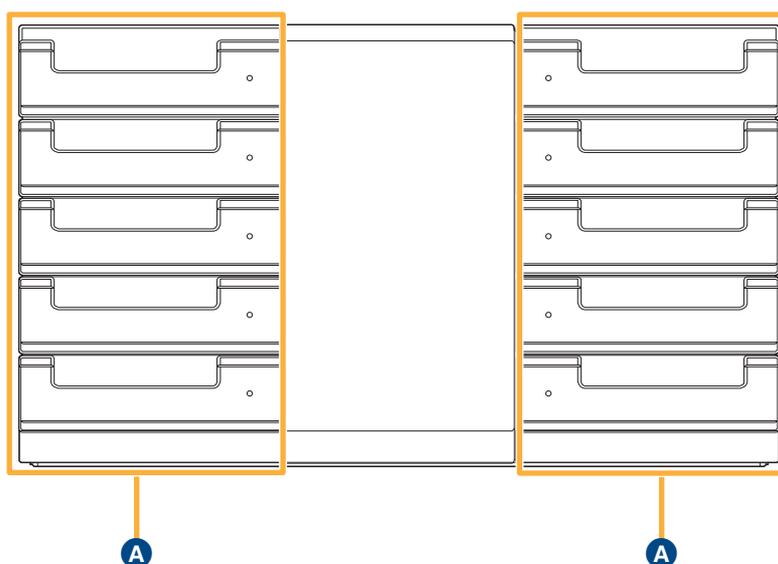
### B 制御ポート

ベースモジュールと付属の専用接続ケーブルで接続します。

### C 銘板

製品品番、定格、シリアル番号などが記載されています。

## マガジン拡張ユニット (LB-XH82) 前面パネル



### A マガジンドロワー

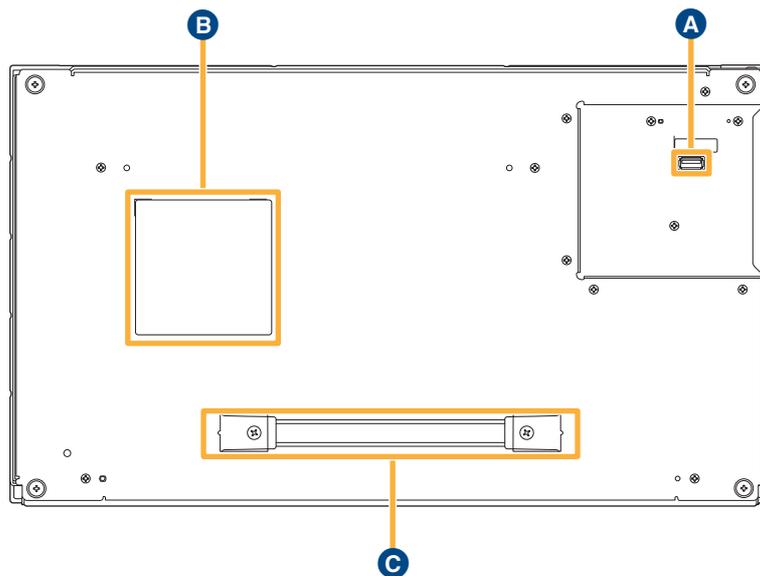
左右に各 5 つのマガジンドロワーを備えており、最大 76 本のマガジンを格納することができます。

- 通常、マガジンドロワーはロックされていますので、開ける場合は操作パネルまたはウェブインターフェースより、ロックを解除してください。

詳しくは、オペレーターガイドの「マガジンとマガジンドロワーの取り扱い方法」を参照してください。

- 設置準備時のみ、手動でロックを解除する必要があります。詳しくは、「ベースモジュールおよび拡張モジュールの準備」(16 ページ)を参照してください。

## 制御ユニット (LB-XC82) 背面パネル



### A 制御ポート

ベースモジュールと付属の専用接続ケーブルで接続します。

### B 銘板

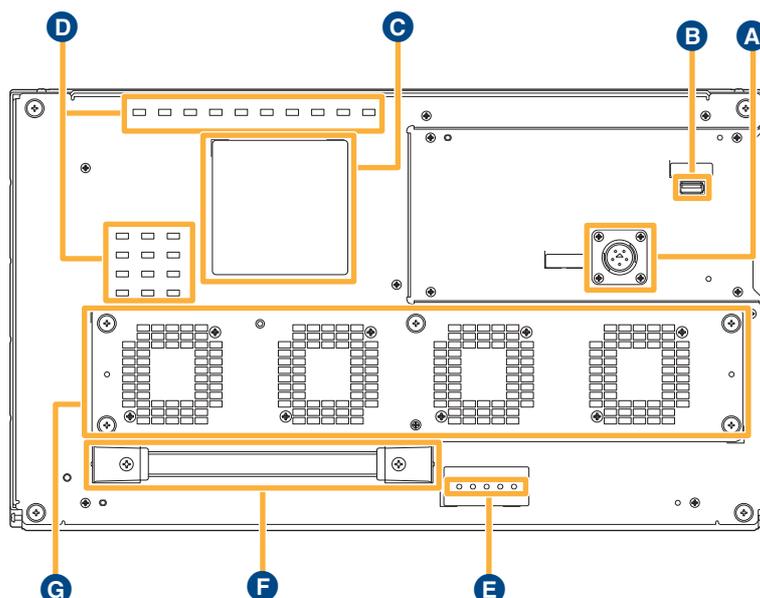
製品品番、シリアル番号などが記載されています。

### C ハンドル

制御ユニットをマガジン拡張ユニットから取り出すときに使用します。

- この部分を持って本機を持ち上げるなど、上記以外に使用しないでください。

## 録再ユニット (LB-XD82) 背面パネル



### A 電源コネクタ

DC +24 V の電源を供給します。

- 電源ケーブルの取り外しは、E の LED5 が消灯していることを確認してから行ってください。

### B 制御ポート

ベースモジュールと付属の専用接続ケーブルで接続します。

### C 銘板

製品品番、定格、シリアル番号などが記載されています。

### D 通気孔

本機内部の空気を入れ換えます。

- この部分をふさがないでください。

### E LED

本機の動作状態を表示します。(一番左を LED1 とし、右へ順番に並んでいます。)

- LED 1 (CONTROLLER) /LED 3 (DRIVE)  
動作中：緑点灯  
停止中：消灯
- LED 2 (CHANGER) /LED 4 (INFORMATION)  
常時消灯
- LED 5 (POWER)  
通電中：緑点灯  
非通電：消灯

### F ハンドル

録再ユニットをマガジン拡張ユニットから取り出すときに使用します。

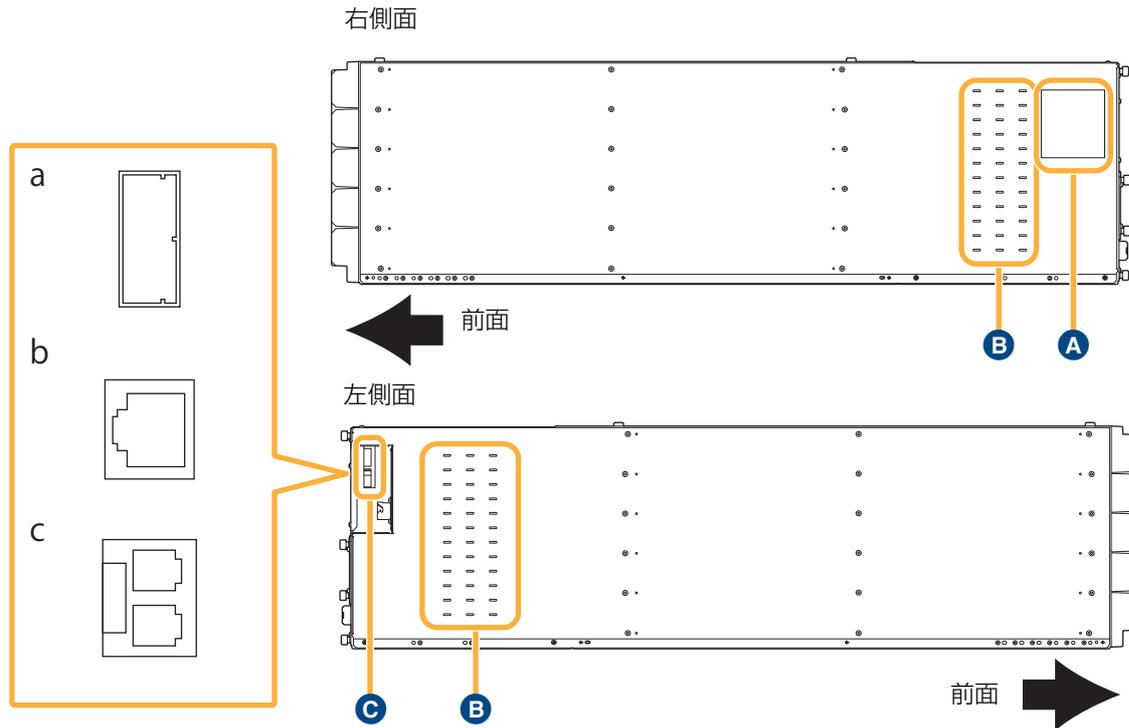
- この部分を持って本機を持ち上げるなど、上記以外に使用しないでください。

### G ファン通気孔

ファン動作時に本機内部の空気を排気します。

- 通常ファン3個、冗長ファン1個の合計4個のファンが内蔵されています。
- この部分をふさがないでください。

## 制御ユニット / 録再ユニット搭載マガジン拡張ユニット 側面パネル



### A 銘板

製品品番、シリアル番号などが記載されています。

### B 通気孔

本機内部の空気を入れ換えます。

- この部分をふさがらないでください。

### C ホストインターフェースポート (録再ユニット搭載時のみ)

データ転送に用いるポートです。

以下のインターフェースコネクタのどれか 1 種類を搭載しています。

a: SAS インターフェースポート (コネクタ: SFF8088 Mini-SAS)

b: iSCSI インターフェースポート (コネクタ: RJ45)

c: FC インターフェースポート (コネクタ: LC)

# 設置前の準備

本機の設置手順について説明します。

## サーバーの準備

搭載のインターフェースに応じて、サーバーにインターフェースアダプターの取り付けとインターフェースの設定を行い、サーバーにアプリケーションとドライバーをインストールして設定してください。

取り付け手順、設定手順については、サーバーとインターフェースアダプターの取扱説明書を参照してください。

## 同梱品

以下の同梱品がすべて入っていることを確認してください。

### ベースモジュール (LB-DH80)

- ベースモジュール (LB-DH80)
- DVD-R (SFM0068)
  - ・オペレーターガイド
  - ・インストールガイド
  - ・規定と安全に関するご注意 / 製品概要 / 免責事項 (同梱冊子と同内容)
  - ・データアーカイバマネージャー操作ガイド
  - ・ハンディーターミナルセットアップファイル
  - ・データアーカイバマネージャーライセンスファイル
- 規定と安全に関するご注意 / 製品概要 / 免責事項
- サポートアングル：2個
- 取り付けアングル  
(左用：SMA0117、右用：SMA0118)：各1個
- M5 ネジ：8本
- M3 ネジ：4本
- DC 電源ケーブル (SEE0088)
- データアーカイバマネージャーライセンス使用許諾書

### ボトムモジュール (LB-DH81)

- ボトムモジュール (LB-DH81)
- 規定と安全に関するご注意 / 製品概要 / 免責事項
- サポートアングル：2個
- 取り付けアングル  
(左用：SMA0117、右用：SMA0118)：各1個
- M5 ネジ：8本
- M3 ネジ：4本
- 固定金具\*：2個
- DC 電源ケーブル (SEE0088)
- 専用接続ケーブル (SEE0077)

※お買い上げ時は、ボトムモジュールに取り付けられています。(16 ページ)

## 拡張モジュール（録再ユニットなし） （LB-DH82ZOG）

- マガジン拡張ユニット（LB-XH82）
- 制御ユニット（LB-XC82）  
（お買い上げ時はマガジン拡張ユニットに取り付けられています）
- 規定と安全に関するご注意 / 製品概要 / 免責事項
- サポートアングル：2 個
- 取り付けアングル  
（左用：SMA0117、右用：SMA0118）：各1個
- M5 ネジ：8 本
- M3 ネジ：4 本
- 固定金具：2 個
- クッションシート 1（SMT0017）：1 枚
- クッションシート 2（SMT0018）：2 枚
- クッションシート 3（SMT0015）：2 枚
- クッションシート 4（SMT0016）：1 枚
- 専用接続ケーブル（SEE0077）

## 拡張モジュール（録再ユニットあり） （LB-DH82AOG/SOG/FOG）

- マガジン拡張ユニット（LB-XH82）
- 録再ユニット（LB-XD82A/S/F）  
（お買い上げ時はマガジン拡張ユニットに取り付けられています）
- 規定と安全に関するご注意 / 製品概要 / 免責事項
- サポートアングル：2 個
- 取り付けアングル  
（左用：SMA0117、右用：SMA0118）：各1個
- M5 ネジ：8 本
- M3 ネジ：4 本
- 固定金具：2 個
- クッションシート 1（SMT0017）：1 枚
- クッションシート 2（SMT0018）：2 枚
- クッションシート 3（SMT0015）：2 枚
- クッションシート 4（SMT0016）：1 枚
- DC 電源ケーブル（SEE0088）
- 専用接続ケーブル（SEE0077）

- 付属品の品番は、2015 年 2 月現在のものです。変更されることがあります。
- 包装材料などは製品を取り出したあと、適切に処理をしてください。

## 梱包箱開梱

作業を開始する前に、本機を設置する場所付近に水平な作業用のスペースを確保し、本機を置く前にあらかじめ本機を覆っているシートを敷いておいてください。

- 取り付けアングルの取り付けや補強プレートの取り外しをしやすいように、作業用スペースは机などの少し高さがある場所をお勧めします。

以下の手順に従って、梱包箱を開梱してください。

- 1** 出荷用梱包箱を開いたあと、箱の側面板を取り外し、緩衝材を取り除く

## 2 本機を持ち上げて作業用スペースへ移動する

- 本機と箱の間から手を入れて、本機の底面を支えながら持ち上げてください。背面側に重心があるため、複数人でバランスを取って作業をしてください。
- 作業用スペースに移動後、「設置」（18 ページ）を参照し、各モジュールの準備をしたあと、本機底面を持って移動してください。
- 15 ページの内容を守って作業をしてください。
- 付属品はセット後ろにある付属品箱と、セットを取り出したあとに見える底面にあります。

## ラックの準備

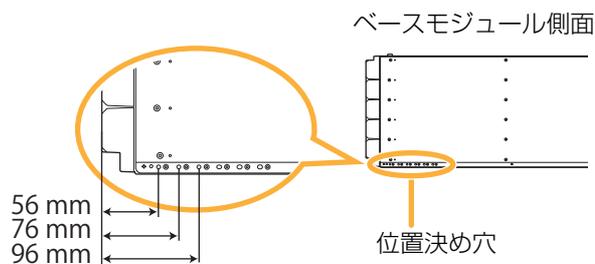
本機は EIA 規格ユニバーサルピッチに準拠しマウントフレームの穴は四角穴 (□9.6 mm 推奨) タイプの、奥行き 1000 mm の 19 インチラックに設置可能です。

19 インチラックは耐荷重 100 kg 以上で、高さ 10U 以上 (ベースモジュール (LB-DH80) : 6U、ボトムモジュール (LB-DH81) : 4U) のスペースが必要です。

- 保守のために、前面に 1400 mm 以上空間を空けてください。
- ボトムモジュールを設置する下部の位置を特定してください。ボトムモジュール下部から 4U 上がベースモジュールの下部の位置になります。

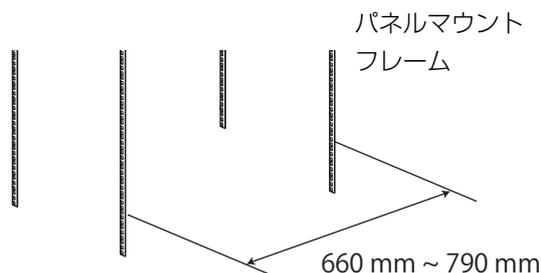
### 1 ラック内の前後スペースを確認する

- 本機は取り付けアングルを 3 段階に調整可能です。ベースモジュールの取り付けアングルは、下記寸法を参考に調整してください。ボトムモジュールの取り付けアングルは、ベースモジュールの取り付けアングルと同じ位置決め穴の位置に調整してください。



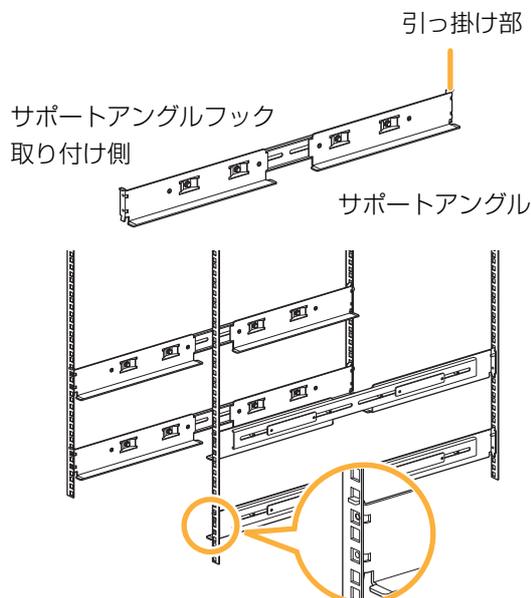
### 2 パネルマウントフレーム前後のスペースを確認する

- 660 mm 以上、790 mm 以下のスペースに設置可能です。
- 必要に応じて、ラックのパネルマウントフレームの位置を調整してください。



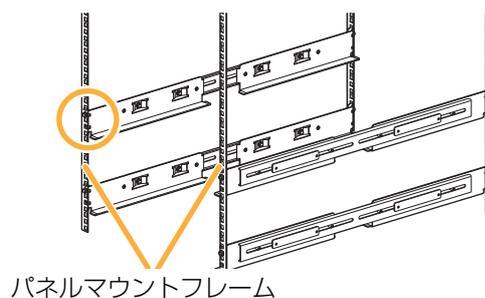
### 3 付属のサポートアングルを取り付ける

- サポートアングルの向きを確かめてください。
- サポートアングルフックに片側を載せたあと、逆側は平行になるように、引っ掛け部をマウントフレームに引っ掛けてください。



### 4 サポートアングルをパネルマウントフレームに固定する

- サポートアングル 1 個につき付属の M5 ネジを 4 本使用します。
- ご使用のラックのパネルマウントフレームがクリップナット対応の場合は、クリップナットをご使用ください。



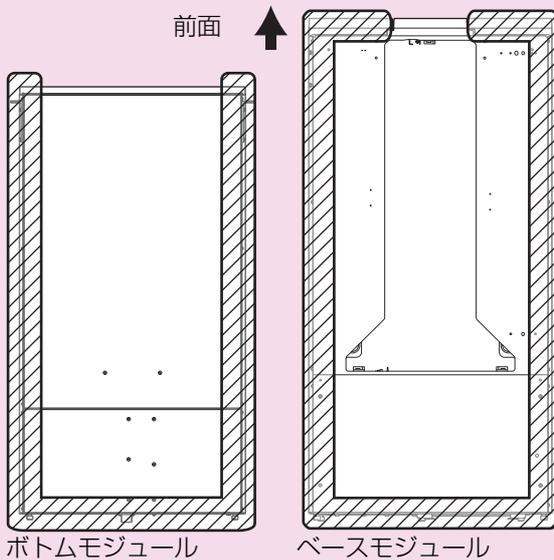
本機前面のマガジンドロワー引き出し用の取っ手を持って持ち上げると、マガジンドロワーが破損するおそれがあります。本機を移動する場合は、「設置」(18ページ)を参照して、必ず指定の方法で移動してください。

ベースモジュールの重量はマガジンが入っていない場合で約45 kg、マガジン76本を格納した場合、最大約68 kgになり、ボトムモジュールは約22 kgです。本機を移動するときは、けがや本機の損傷を防止するために、以下に気をつけてください。

- ご使用の地域で定められている「重量のある装置の安全な取り扱い」に関する規定に従ってください。
- 設置または移動をする場合は、本機の重量を減らすために、すべてのマガジンドロワーを取り出してください。
- 設置または取り外しをする場合に、本機を持ち上げたり固定したりするときは、必ず複数人で滑り止め付きの軍手を使用し、作業を行ってください。
- パネルマウントフレームの取り付け方法については、19インチラックメーカーに確認してください。
- 本機を移動させる場合、底面の下記斜線部分を持ち、水平に移動してください。

移動する場合には、絶対にマガジンドロワーの取っ手部分や挿入間口のセット上面部、本機背面のハンドル部分を持たないでください。

#### 移動の際に持つ場所



- ラックは水平な床にボルトで固定して使用してください。
- 本機の上に重い物を載せたり、乗ったりしないでください。
- 本機以外のものがラックにマウントされている場合、サポートアングルや本機が他の製品等に干渉しないように注意してください。
- 油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かないでください。
- 本機を横向きにしないでください。

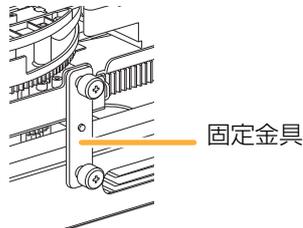
- 本機を奥まで押し込む際は、指定の場所を押してください。液晶パネルや電源ボタン、マガジンドロワー部分を押さないでください。
- 必ず取り付けアングルを使用し、マガジン装てん前に19インチラックに確実に固定してください。地震などによる落下で、装置の動作支障やマガジンの破損につながるおそれがあります。
- 正しい作業手順で行われなかった設置、接続、取り扱いが原因で生じた損害、事故に関して当社は一切の責任を負いかねます。

#### お知らせ

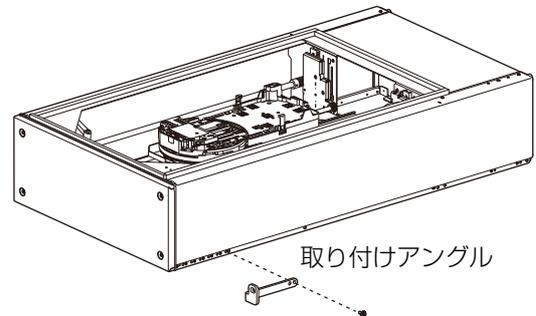
本機を設置する部屋と設置前の保管場所の温度差が15℃以上ある場合は、周囲の環境に12時間以上順応させてから、出荷用梱包箱を開けてください。

## ボトムモジュールの準備

- 1 チェンジャーユニットの固定金具を取り外す
  - チェンジャーユニットが輸送時に動かないように固定金具が取り付けられています。(左右2か所)
  - 取り外した固定金具は、ベースモジュールの位置決めに使用します。(19 ページ)

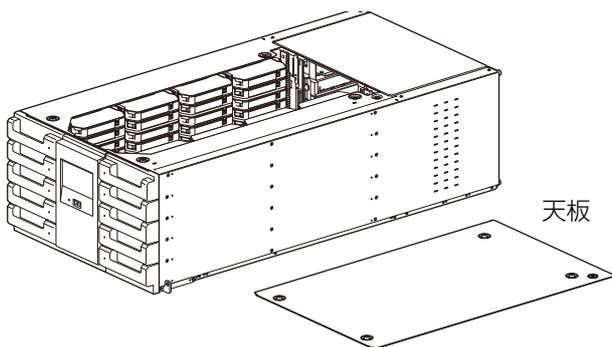


- 2 本機の左右に付属の取り付けアングルを取り付ける
  - 取り付けアングル1個につき付属のM3ネジ2本を使用します。
  - 取り付けアングルは形状、向きを確認し、正しく取り付けてください。

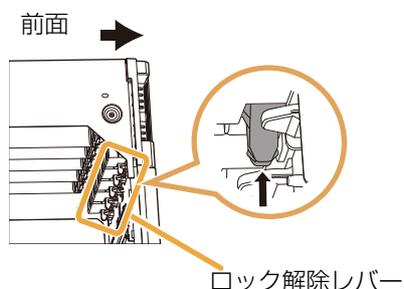


## ベースモジュールおよび拡張モジュールの準備

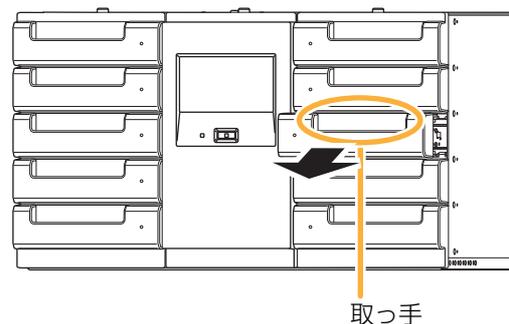
- 1 ベースモジュール (LB-DH80) のみ天板を取り外す
  - 手回しネジを4か所と、M3ネジを1か所外してください。



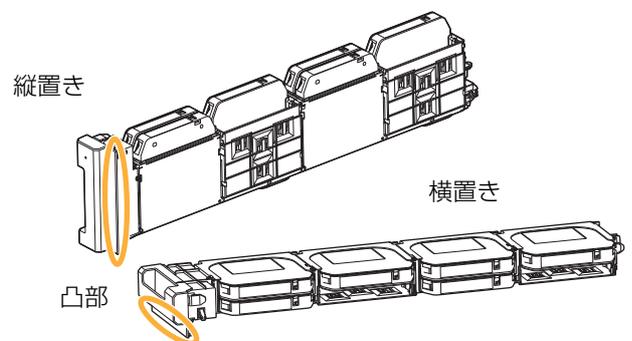
- 2 マガジンドロワーのロックをすべて解除する
  - モジュールの上から手を入れてロック解除レバーを押し込んでください。
  - ロック解除をすると、マガジンドロワーが少し前へ出ます。



- 3 マガジンドロワーを引き出す
  - マガジンドロワーの取っ手に手をかけてマガジンドロワーを手前に引き出し、もう片方の手でマガジンドロワーの底面を支えながら完全に抜き切ってください。



- 左右最下段のマガジンドロワーはフロント下部に凸形状があるため、横置きではなく縦置きにしてください。

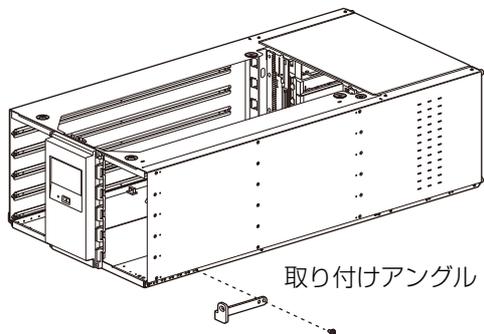


- マガジンドロワーは必ずロックを解除してから引き出してください。無理に引き出すとマガジンドロワーが破損するおそれがあります。
- マガジンドロワーを強く引き出さないでください。
- マガジンドロワー開口部から、本機内部に手を入れないでください。
- マガジンドロワーに乗ったりぶら下がったり、もたれ掛かるなど無理な力をかけないでください。
- マガジンドロワーを引き出したままにしないでください。

- 設置前に、本機背面の手回しネジ 4 か所に貼り付けられているテープをはがした後、手回しネジの緩みを必ず確認してください。
- 手回しネジが緩んでいた場合は、しっかり締めてください。
- 手回しネジが緩んだ状態で設置作業を行うと、重量物の落下や本機の損傷が発生するおそれがあります。

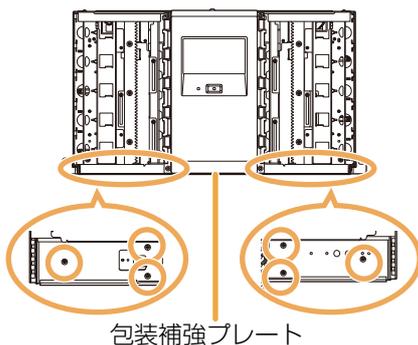
#### 4 本機の左右に付属の取り付けアングルを取り付ける

- 取り付けアングル 1 個につき付属の M3 ネジ 2 本を使用します。
- 取り付けアングルは形状、向きを確認し、正しく取り付けてください。

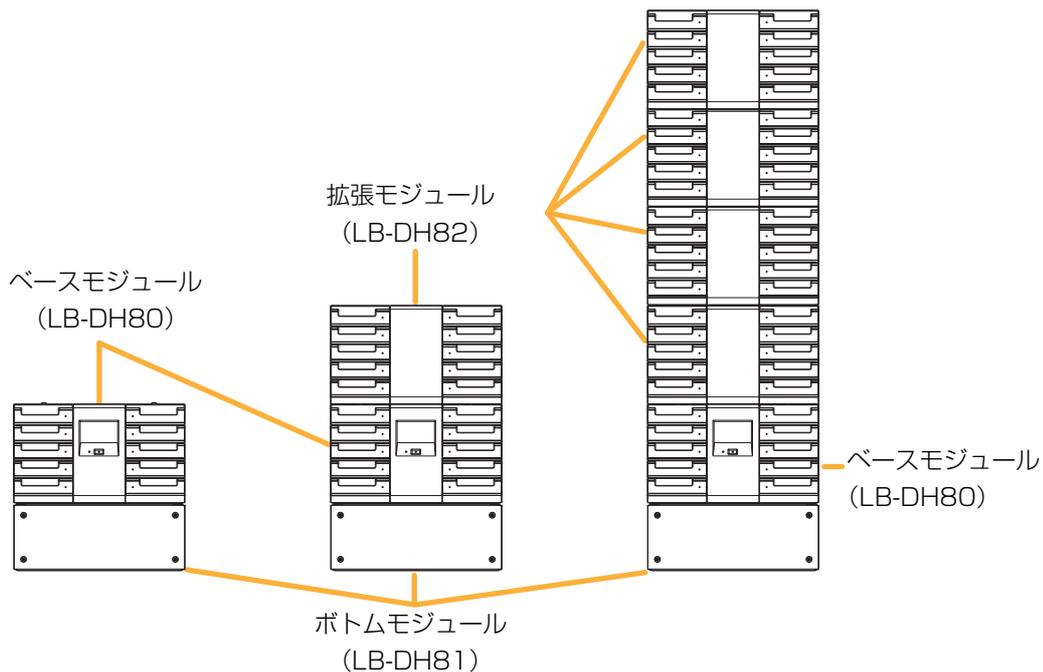


#### 5 包装補強プレートを取り外す

- 底面には輸送時の保護用に、包装補強プレートが取り付けられています。プレートのネジを 6 か所外して、プレートを取り外してください。取り外したネジとプレートは大切に保管してください。



## 設置例

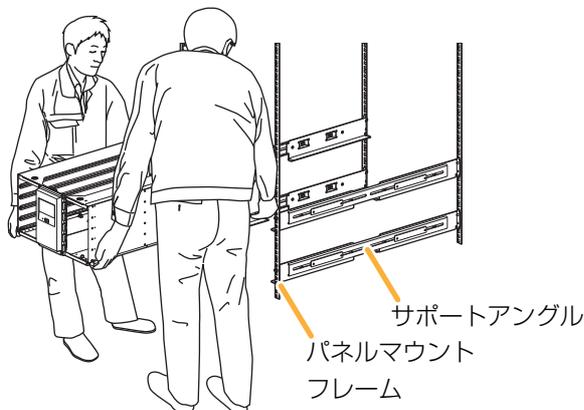


ラック最下段にボトムモジュール (LB-DH81) を設置し、その上にベースモジュール (LB-DH80) を設置する。増設する場合、ベースモジュールと拡張モジュール (LB-DH82) の順番は自由に配置可能です。

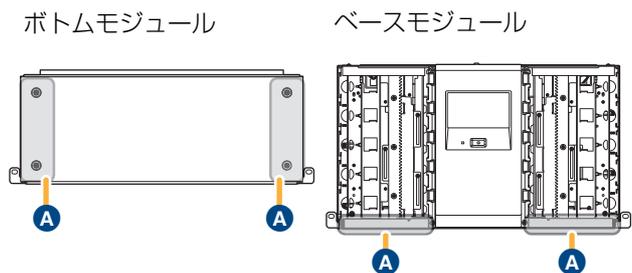
ボトムモジュールは必ず一番下に設置してください。

## ラックへの設置

- 1 本機を両側から一人ずつ持ち、ラックのサポートアングル上に本機を載せる
  - 本機を右側のパネルマウントフレームに寄せてください。
  - 19 インチラックの一番上段に設置する時などモジュール上部に作業スペースがない場合は、天板をモジュールに取り付けた後で設置することも可能です。(21 ページ)
  - 各モジュールの持つ場所は「移動の際に持つ場所」(15 ページ) をご参照ください。



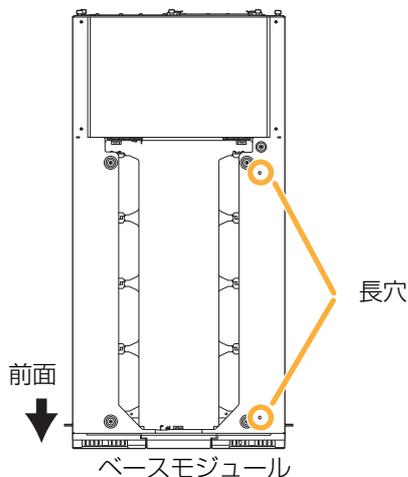
- 2 取り付けアングルがパネルマウントフレームに当たるまで本機をラックの奥に挿入する
  - **A** の部分を軽く押して本機を右側のパネルマウントフレームに沿わせた状態で、奥まで挿入してください。



### 3 ベースモジュールの場合

#### 位置決め用の固定金具を2か所に取り付ける

- 前後の長穴に位置決め金具のピンを刺し、下のモジュールの穴にもピンが刺さるように位置調整をし、手回しネジを回して、固定してください。
- 左右どちらか一方のサポートアングル（ボトムモジュールを寄せた側）にセットの側面を押し当てることでピンをスムーズに挿入させることができます。
- 2か所の手回しネジを軽く締めて位置を決めてから、しっかり締めてください。
- 手回しネジは押し込みながら回してください。
- 手回しネジを締めたときに、金属部品がベースモジュールの底面から浮いている場合は、再度位置調整をし、最後まで刺さるように固定してください。

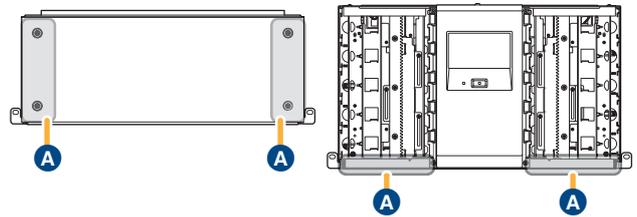


### 4 本機をラックに固定する

- 本機がラックからずれないように **A** の部分をpushさえて、取り付けアングルの穴にラックに適したネジを使用し、本機をラックに固定してください。

ボトムモジュール

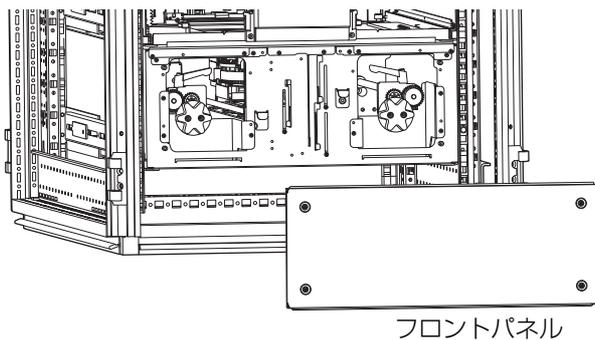
ベースモジュール



## 昇降ラックの連結

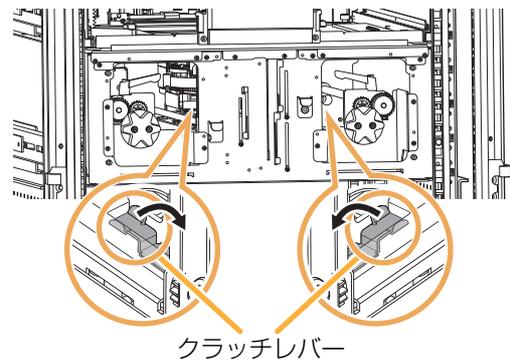
### 1 ボトムモジュールのフロントパネルを外す

- ネジを4か所外してください。



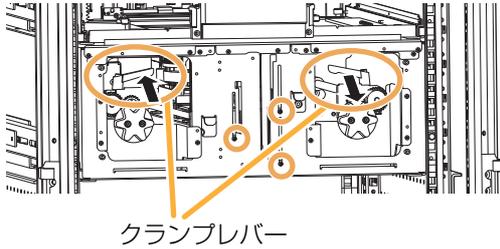
### 2 チェンジャーユニットの駆動伝達を切る

- 前面左右の開口部よりそれぞれ手を入れ、クラッチレバーを手前に起こしてください
- クラッチレバーは少し横に押し込むと、手前に起こせるようになります。
- クラッチレバーが自然に戻らない状態まで起こしていることを確認してください。
- クラッチレバー下部にあるモーターには触れないでください。



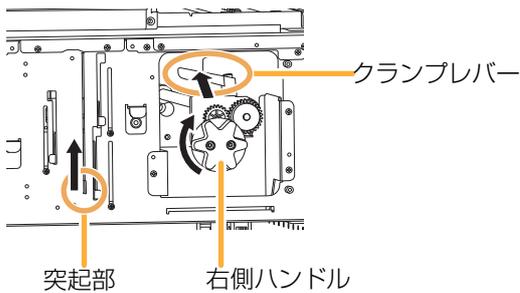
### 3 昇降ラックの固定を解除する

- 前面の昇降ラックの3か所の固定ネジを緩めてください（再度固定が必要なので外さないでください）。
- 左右2か所のクランプレバーを反時計回りに回して緩めてください。



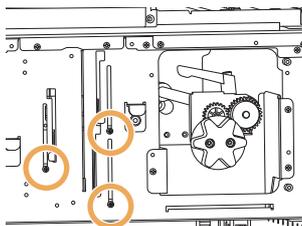
### 4 右奥の昇降ラックを連結させる

- 前面の開口部より手を入れ、右側のハンドルを時計回りに回して昇降ラックを上昇させてください。
- 右奥の昇降ラックと前面の昇降ラックは連動しています。前面の突起部を押し上げながらハンドルを回してください。
- ベースモジュールの昇降ラックとの間に隙間がなくなるまで上昇させたら、右側のクランプレバーを時計回りに回して固定してください。



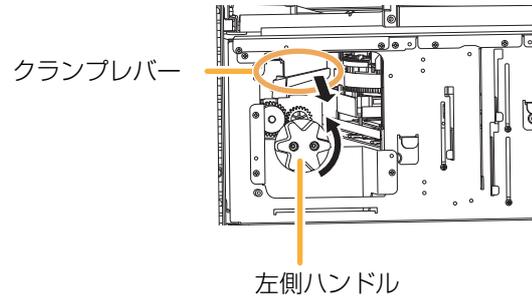
### 5 前面の昇降ラックを連結させる

- 前面の突起部を押し上げてベースモジュールの昇降ラックと隙間なく連結したら、3か所の固定ネジを締めて固定してください。



### 6 左奥の昇降ラックを連結させる

- 前面の開口部より手を入れ、左側のハンドルを反時計回りに回して昇降ラックを上昇させてください。
- ベースモジュールの昇降ラックとの間に隙間がなくなるまで上昇させたら、左側のクランプレバーを時計回りに回して固定してください。

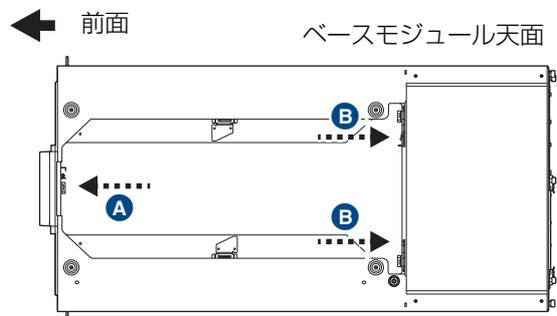


### 7 チェンジャーユニットの駆動伝達を元に戻す

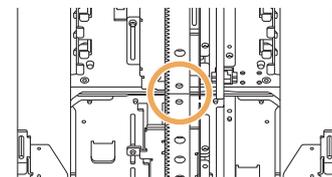
- 手順2で手前に起こしたクラッチレバーを元に戻してください。
- クラッチレバー下部にあるモーターには触れないでください。

### 8 ベースモジュールの上部から昇降ラックの連結を確認する

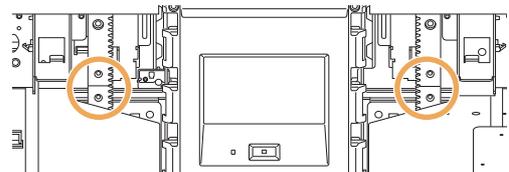
- 3か所の昇降ラックが隙間なく連結されていることを確認してください。
- 天板をベースモジュールに取り付けている場合は、前面の開口部より左右奥側ラックを、制御ユニットまたは録再ユニットを外して（25 ページ）背面より前側ラックを確認してください。



#### A 背面から前側ラックを確認

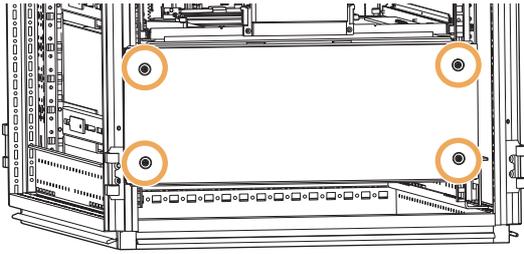


#### B 前面から左右奥側ラックを確認



## 9 フロントパネルを取り付ける

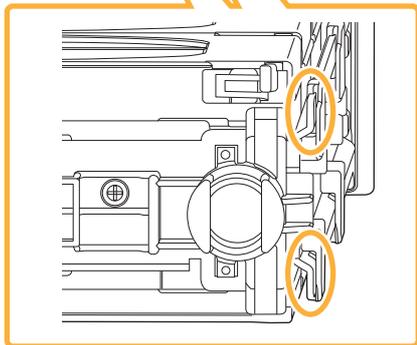
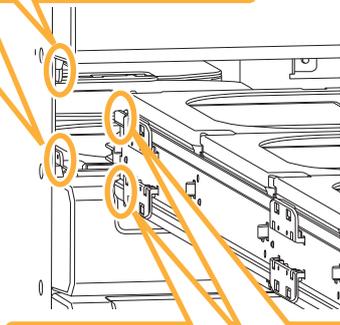
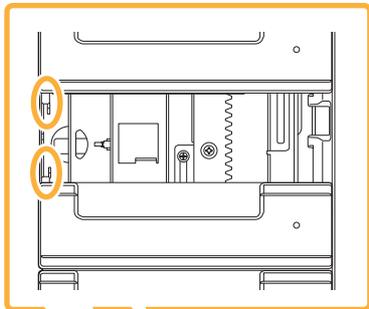
- ネジを4か所しっかり締めてください。



## 10 マガジンドロワーを装てんする

- 装てんするモジュールのシャーシ側面にあるガイドレールにマガジンドロワーの側面の曲げ部を入れ、ロックがかかるまで押し込んでください。完全に押し込まれていないと本機は動作しません。
- マガジンドロワーの向きに気をつけて取り付けてください。

シャーシ側ガイドレール



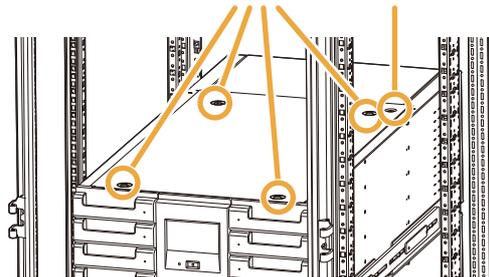
マガジンドロワー側面曲げ部

- マガジンドロワーはマガジン取り付け面を下にして持ち運ばないでください。マガジンが落下するおそれがあります。
- 手順の指示以外の機構部分には触らないでください。マガジンの中身が飛び出すおそれがあります。
- マガジンを無理に取り外さないでください。マガジンおよびマガジンドロワーが破損するおそれがあります。
- マガジンドロワー開口部から、本機内部に手を入れないでください。
- 本機内部にマガジン、マガジンドロワー以外のものを入れないでください。
- マガジンドロワーで指をはさまないように注意してください。
- マガジンドロワーを強く押し込まないでください。

## 11 ベースモジュール (LB-DH80) のみ 天板を取り付ける

- 4か所の手回しネジを軽く締めて位置を決めてから、しっかり締めてください。そのあとM3ネジを締めてください。
- 手回しネジは押し込みながら回してください。
- ベースモジュールに天板をすでに取り付けている場合は、本作業は不要です。

手回しネジ M3ネジ



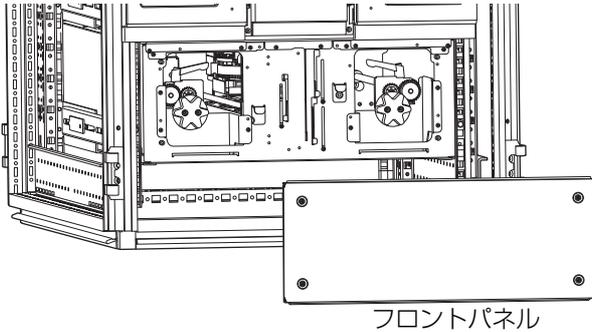
## 増設

制御ユニット (LB-XC82) または録再ユニット (LB-XD82) を搭載した拡張モジュールを追加することで、本機の増設が可能です。

- 制御ユニットまたは録再ユニットのマガジン拡張ユニットへの搭載方法については、「制御ユニット、録再ユニットの取り付け」(25 ページ) を参照してください。

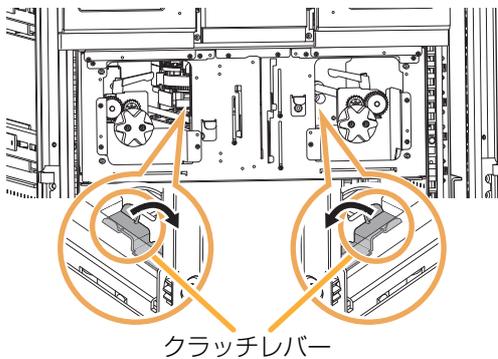
### 1 ボトムモジュールのフロントパネルを外す

- ネジを 4 か所外してください。



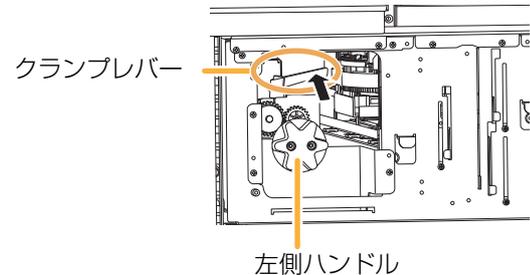
### 2 チェンジャーユニットの駆動伝達を切る

- 前面左右の開口部よりそれぞれ手を入れ、クラッチレバーを手前に起こしてください。
- クラッチレバーは少し横に押し込むと、手前に起こせるようになります。
- クラッチレバーが自然に戻らない状態まで起こしていることを確認してください。
- クラッチレバー下部にあるモーターには触れないでください。



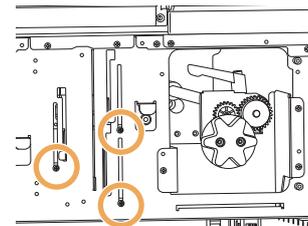
### 3 左奥の昇降ラックの連結を解除する

- ボトムモジュール前面の開口部より手を入れ、左側のクランプレバーを反時計回りに回して昇降ラックの固定を解除してください。
- 昇降ラックの固定を解除すると、自動的に昇降ラックが下降します。ハンドルが自動で回転しますので、指などははさまないように注意してください。



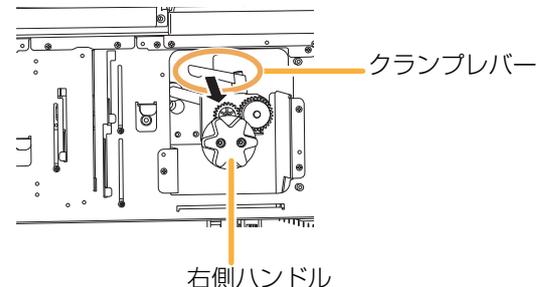
### 4 前面の昇降ラックの連結を解除する

- 3 か所の固定ネジを緩めて、昇降ラックの固定を解除してください。
- 前面の昇降ラックは右奥の昇降ラックと連動しているので、自動的に下降しません。

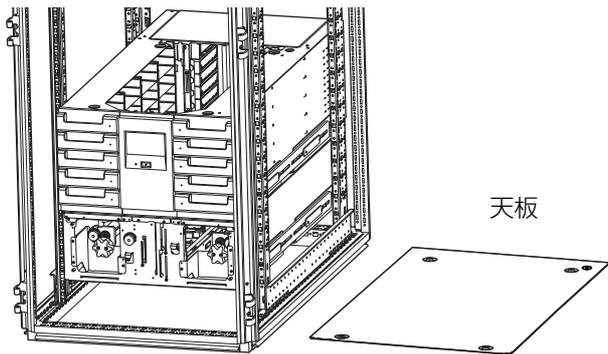


### 5 右奥の昇降ラックの連結を解除する

- ボトムモジュール前面の開口部より手を入れ、右側のクランプレバーを反時計回りに回して昇降ラックの固定を解除してください。
- 昇降ラックの固定を解除すると、自動的に昇降ラックが下降します。ハンドルが自動で回転しますので、指などははさまないように注意してください。
- 前面の昇降ラックも連動して、自動的に下降しますのでご注意ください。

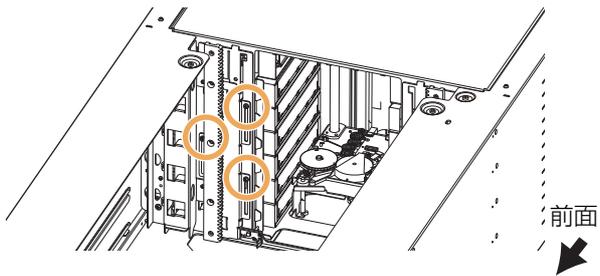


- 6** 一番上段のモジュールの天板を外す
- 手回しネジを4か所と、M3ネジを1か所外してください。

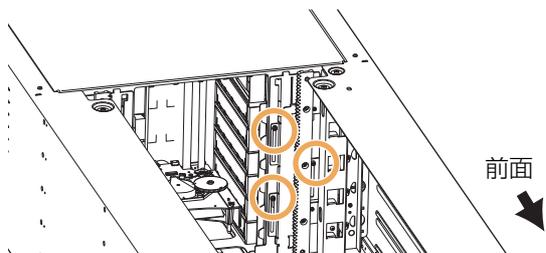


- 7** 拡張モジュールの昇降ラックの固定ネジを外す
- 一番上段に配置するモジュールは固定ネジを外す必要はありません。
  - 複数のモジュールを増設する場合、一番上段に配置する以外のすべてのモジュールについて、昇降ラックの固定ネジを外してください。
  - 取り外した固定ネジは輸送するときに必要となります。大切に保管してください。

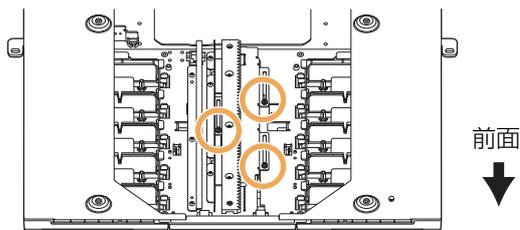
左奥側昇降ラック



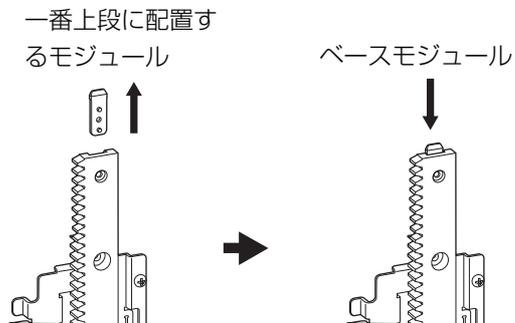
右奥側昇降ラック



手前側昇降ラック

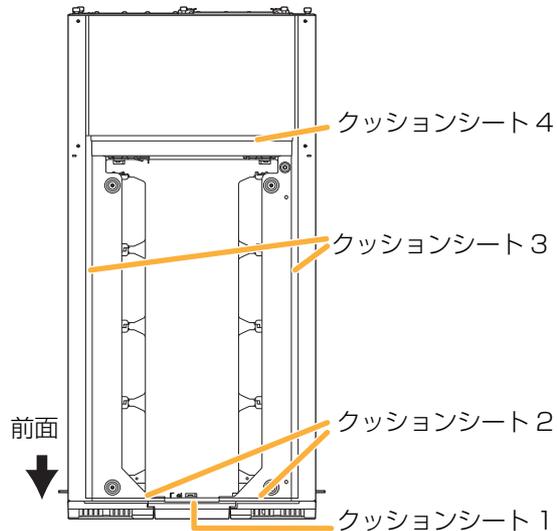


- 8** 一番上段に配置するモジュールの連結プレートを、ベースモジュールに移設する
- ベースモジュールを一番上段に配置する場合、本作業は不要です。
  - 連結プレートは昇降ラック上部にネジで固定されています。ネジを外して連結プレートを取り外し、同じネジを使って移設先の昇降ラック上部に固定してください。



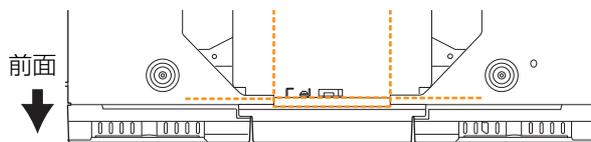
- 9** 付属のクッションシート1～4をベースモジュールに貼る

- 貼り付け面とクッションシートに隙間がないように貼り付けてください。
- クッションシートはしっかりと加圧して貼り付けてください。貼り付け不十分の場合、モジュール挿入時に剥がれることがあります。
- ベースモジュールの下にマガジン拡張ユニットを増設する場合は、マガジン拡張ユニットにクッションシートを貼り付けてください。



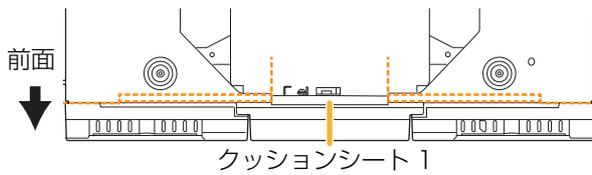
① クッションシート1を貼る

左右、奥行きがフロントパネルからはみ出さないように下記の点線を目安に貼り付ける



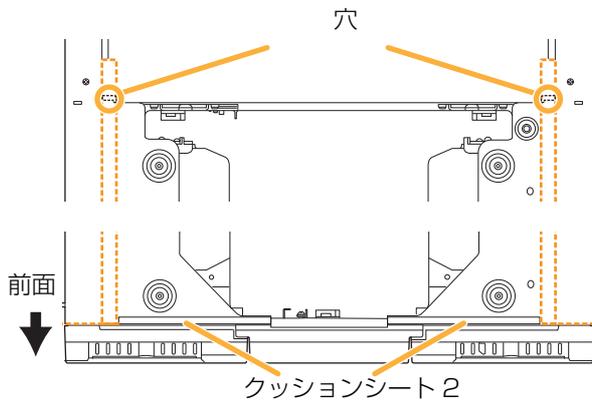
## ② クッションシート 2 を貼る

クッションシート 1 と隙間がないように下記の点線を目安に貼り付ける



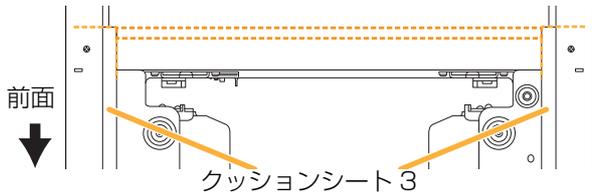
## ③ 左右どちらかのクッションシート 3 を貼る

クッションシート 2 の前側ラインに合わせて、隙間がないようにクッションシート 3 の前側を貼り付ける。まっすぐ後ろ側までクッションシート 3 を伸ばし、穴を塞ぐように貼り付ける。



## ④ クッションシート 4 を貼る

③で貼ったクッションシート 3 と隙間がないように下記の点線を目安に貼り付ける



## ⑤ 残った左右どちらかのクッションシート 3 を貼る

クッションシート 2 や 4 と隙間がないように貼り付ける。

## 10 増設するモジュールを取り付ける

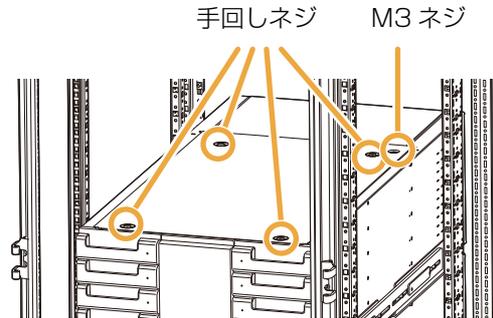
- 「ラックの準備」(14 ページ) 手順 3 ~ 4、「ベースモジュールおよび拡張モジュールの準備」(16 ページ) 手順 2 ~ 5、「ラックへの設置」(18 ページ) のベースモジュールの作業手順に従って取り付けてください。

## 11 すべてのモジュールの昇降ラックを連結させる

- 昇降ラックの連結方法については、「昇降ラックの連結」(19 ページ) 手順 2 ~ 10 を参照してください。

## 12 天板を一番上段のモジュールに取り付ける

- 4 か所の手回しネジを軽く締めて位置を決めてから、しっかり締めてください。そのあと M3 ネジを締めてください。
- 手回しネジは押し込みながら回してください。
- ベースモジュールに天板をすでに取り付けている場合は、本作業は不要です。

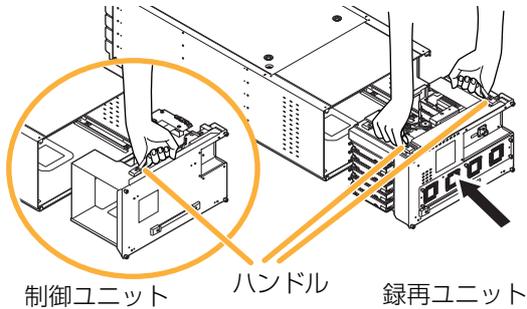


## 制御ユニット、録再ユニットの取り付け

下記の手順に従って制御ユニットまたは録再ユニットをマガジン拡張ユニットに取り付けてください。

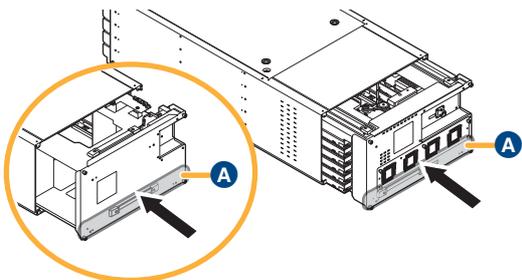
### 1 マガジン拡張ユニットの後方に制御ユニットまたは録再ユニットを入れる

- 上部ハンドルを持ってください。



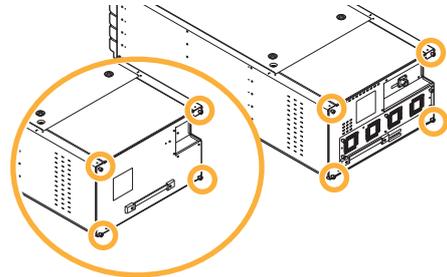
### 2 制御ユニットまたは録再ユニットを奥まで押し込む

- Aの部分軽く押し込んで奥まで挿入してください。



### 3 背面の手回しネジを4か所締める

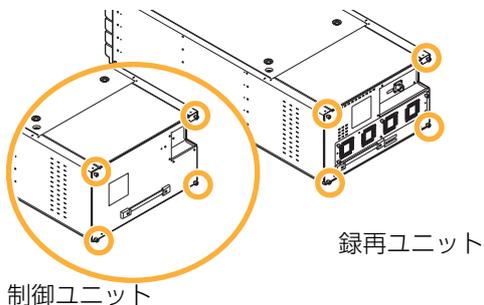
- 4か所すべての手回しネジを軽く締めて位置を決めてから、しっかり締めてください。
- 手回しネジは押し込みながら回してください。



## 制御ユニット、録再ユニットの取り外し

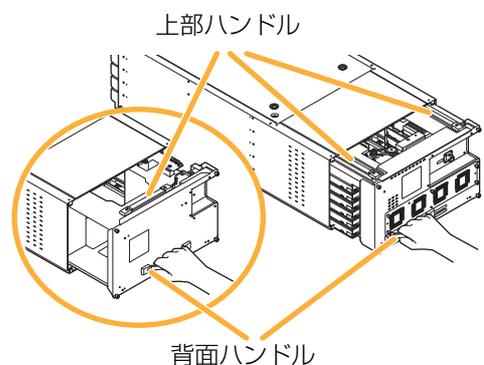
下記の手順に従って制御ユニットまたは録再ユニットをマガジン拡張ユニットから取り外してください。

### 1 制御ユニットまたは録再ユニット背面の手回しネジを4か所外す



### 2 制御ユニットまたは録再ユニットをマガジン拡張ユニットから引き出す

- 背面のハンドルを持ち、上部のハンドルが出てくるまでゆっくり引き出してください。



### 3 制御ユニットまたは録再ユニットをマガジン拡張ユニットから引き抜く

- 上部ハンドルを持ってください。

## ラックからの取り外し

### 準備

- ① 最上段のモジュールの天板を取り外し、マガジンドロワーのロックを外して、すべてのマガジンドロワーを取り外す（16 ページ）
- ② サーバー、本機、外部電源の電源を切る
- ③ DC 電源ケーブルや各種インターフェースケーブルを本機から取り外す（31 ページ）
- ④ 「増設」（22 ページ）手順 1～5 の作業手順に従って、昇降ラックの連結を解除してください。
  - 本機を置くスペースや通り道を確認してください。

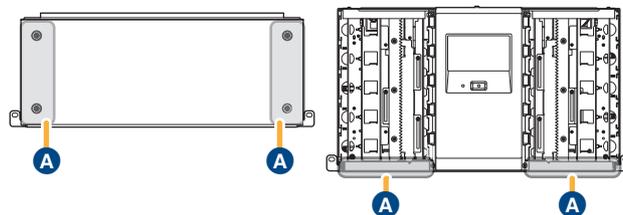
下記の手順に従って上段のモジュールから順に取り外してください。

- 1 ベースモジュール、マガジン拡張ユニットのみ位置決め金具を2カ所取り外す（19 ページ）

- 2 本機をラックに固定している取り付けアングルのネジを取り外す

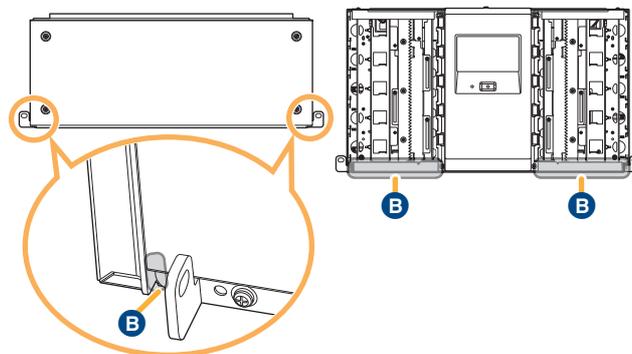
- 本機がラックからずれないように **A** の部分をおさえてください。

ボトムモジュール      ベースモジュール /  
マガジン拡張ユニット



- 3 本機を両側から一人ずつ **B** の部分を持ち、ラックから本機を引き出す

ボトムモジュール      ベースモジュール /  
マガジン拡張ユニット



# 接続

接続する機器の電源を切った状態で、接続してください。

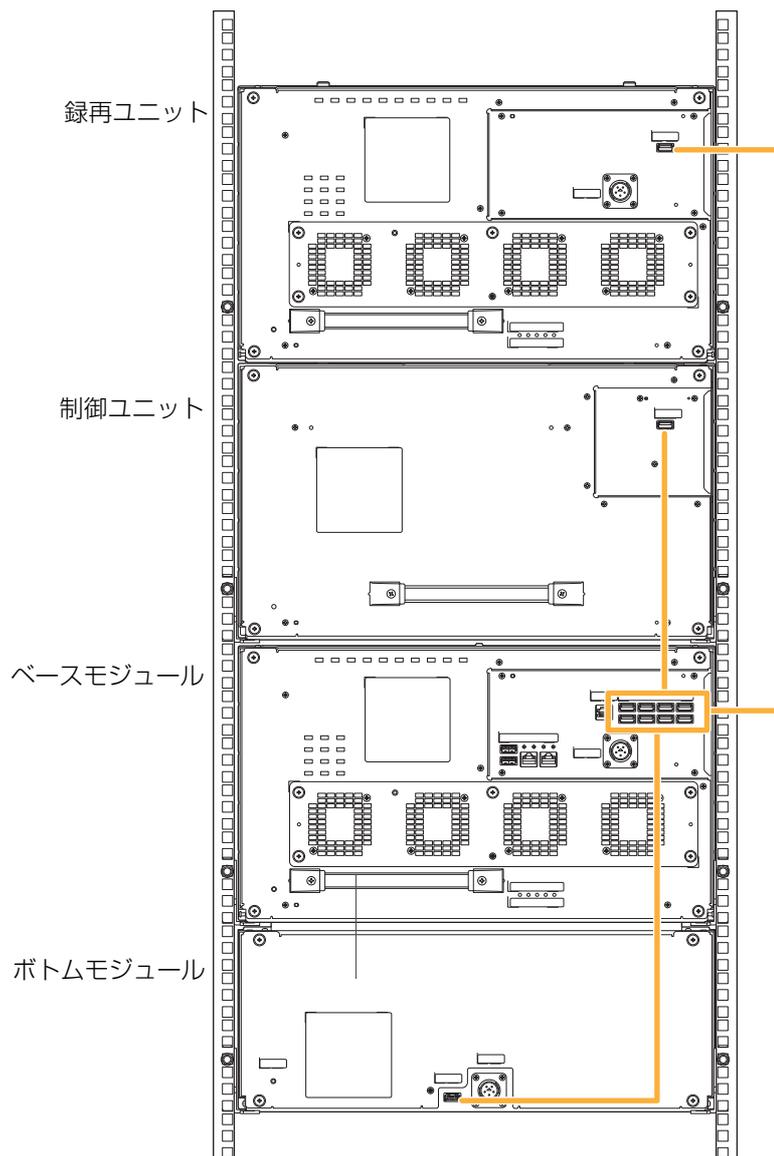
## 専用接続ケーブルの接続

(ベースモジュール / ボトムモジュール / 制御ユニット / 録再ユニット)

ベースモジュール (LB-DH80) とボトムモジュール (LB-DH81)、制御ユニット (LB-XC82)、録再ユニット (LB-XD82) の間を接続するためのポートです。

- 付属の専用接続ケーブルを使用してください。
- ボトムモジュール、制御ユニット、録再ユニットのすべてを、ベースモジュールに接続してください。

構成例



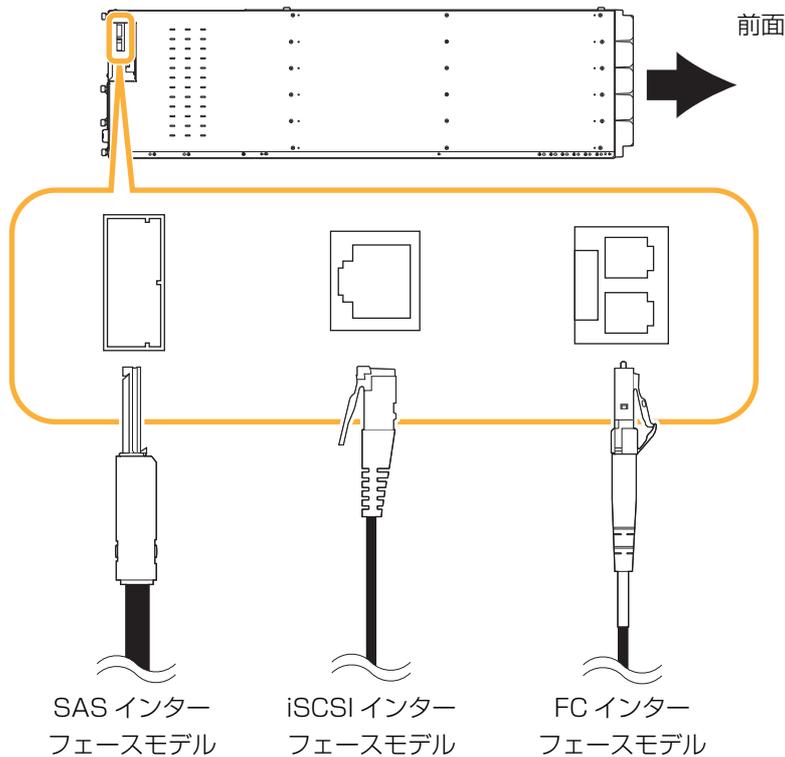
## ホストインターフェースの接続 (ベースモジュール / 録再ユニット)

データ転送に用いるインターフェースポートです。  
使用するインターフェースポートに合わせて接続してください。

- SAS ケーブル仕様  
外部接続用 Mini SAS 4x (SFF8088 26-CKT External Universal Key) ケーブルを使用してください。

- LAN ケーブル仕様  
カテゴリ 7 (CAT7) のシールドタイプの LAN ケーブル (ストレート接続) を使用してください。
- 光ファイバーケーブル仕様  
LC コネクタで OM3 対応のマルチモード光ファイバーケーブルを使用してください。

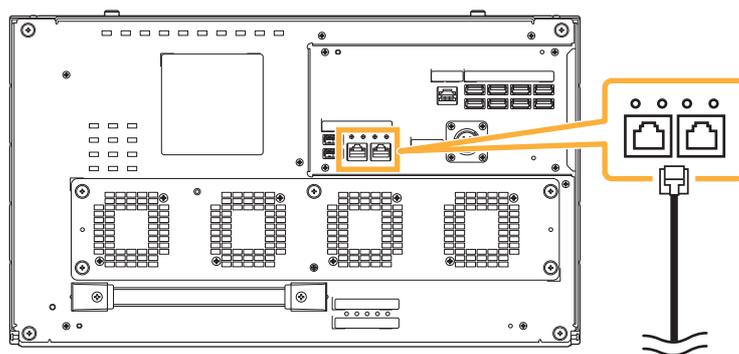
ベースモジュール / 録再ユニット側面



## LAN の接続 (ベースモジュール)

本機の管理用に用いるポートです。ウェブインターフェース、タイムサーバー、電子メール通知、SNMP を使用する場合、このポートへのネットワーク接続が必要です。

- 左右のポートは同様に使用できます。
- カテゴリ 5 (CAT5) 以上のシールドタイプの LAN ケーブル (ストレート接続) を使用してください。



ベースモジュール背面

## 外部電源の接続 (ベースモジュール / ボトムモジュール / 録再ユニット)

DC 電源ケーブルを外部電源に接続する作業は、適切な教育を受けた資格を有する技術者が行ってください。

外部電源の AC 電源ケーブルを取り外した状態で、接続してください。

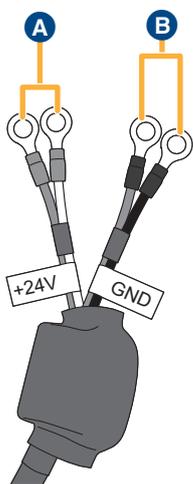
動作確認済み外部電源については、購入先に確認してください。

### 準備

ラックに外部電源を固定してください。

### 1 本機と外部電源を DC 電源ケーブルでつなぐ

- 本機に付属している DC 電源ケーブルの丸端子側を外部電源の出力端子に取り付けてください。
- + 24V タグの付いているケーブル **A** (色: 赤 / 白) は外部電源の + 24 V 端子に接続してください。
- GND タグの付いているケーブル **B** (色: 黒 / 緑) は外部電源の GND 端子に接続してください。



- A** 外部電源の + 24 V 端子に接続
- B** 外部電源の GND 端子に接続

- DC 電源ケーブルを外部電源に接続する場合は、極性を間違えないよう注意してください。極性を間違えた場合、ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。
- すべてのモジュール (ベースモジュール / ボトムモジュール / 録再ユニット) を接続してください。
- すべてのモジュールを同じ外部電源に接続してください。

### 2 ベースモジュールと外部電源を I/O ケーブルでつなぐ (動作確認済み外部電源の一部機種使用時のみ)

- 接続作業は電源投入前に行ってください。

### 3 電源コンセントに AC 電源ケーブルのプラグを差し込む

[ 電源スイッチのない外部電源 (動作確認済み外部電源の一部機種を含む) を使用の場合 ]

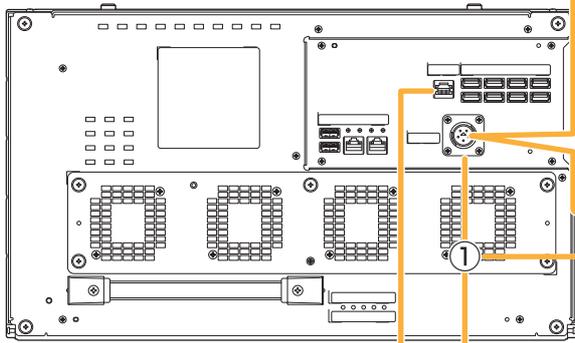
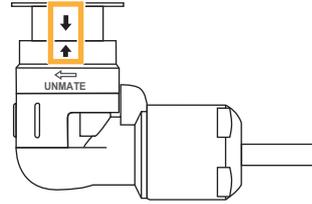
AC 電源ケーブルのプラグを差し込むと本機の電源が入ります。外部電源の取扱説明書を参照し、状態を確認してください。異常があるときは AC 電源ケーブルのプラグを抜いてください。

[ 電源スイッチのある外部電源を使用の場合 ]

外部電源の取扱説明書を参照し、外部電源の電源を入れて、状態を確認してください。異常があるときは AC 電源ケーブルのプラグを抜いてください。

- 本機の電源が入ると、操作パネルが起動中の表示になりファンが回ります。その後自動的に電源が切れます。本機の電源を入れるには電源ボタンを押すか、Wake On LAN 機能で電源を入れてください。下記のメニューで自動的に電源が切れないように設定することができます。  
操作パネル : 「Config」 → 「System」 → 「Startup Option」

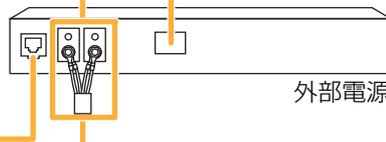
電源コネクタと DC 電源ケーブルの矢印を合わせて、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。



ベースモジュール背面

I/O ケーブル ②

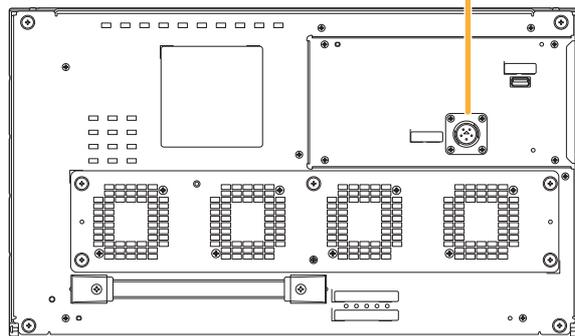
DC 電源ケーブル ①



外部電源

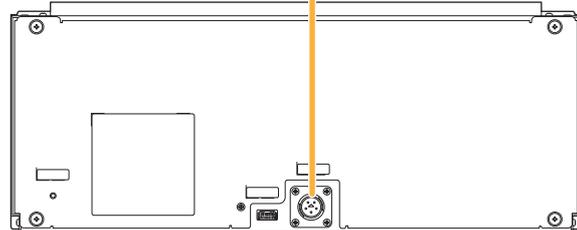
電源コンセント

AC 電源ケーブル



録再ユニット背面

DC 電源ケーブル ①



ボトムモジュール背面

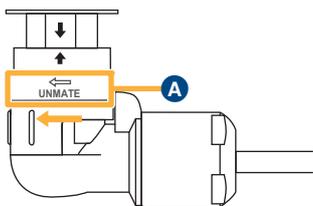
- DC 電源ケーブルは曲げ半径  $r=50$  mm 以上でご使用ください。
- 外部電源の出力端子に DC 電源ケーブルの異なる極性の丸端子同士が接触しないように取り付けてください。接触していると電源が損傷するおそれがあります。
- 外部電源の取扱説明書を参照し、DC 電源ケーブルを取り付けてください。
- DC 電源ケーブルの丸端子側と外部電源の出力端子を固定するときに、極性を正しく取り付けてください。
- 通電状態になると感電の危険がありますので、必ず最後に AC 電源ケーブルを電源コンセントに差し込んでください。
- 動作確認済み外部電源の一部機種以外を使用の場合、I/O ポートは使用しないでください。I/O ポートを接続する動作確認済み外部電源は購入先に確認してください。
- 外部電源の定格を超える使い方や、DC +24 V 以外での使用はしないでください。
- 専用の DC 電源ケーブル以外は絶対に使用しないでください。
- DC 電源ケーブルを破損するようなこと（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど）はしないでください。
- 破損した DC 電源ケーブルを使用しないでください。
- DC 電源ケーブルの丸端子のほこりなどは定期的に取り除いてください。

#### お知らせ

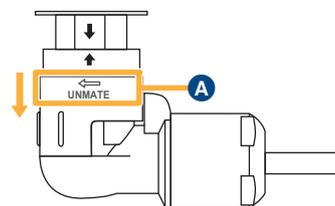
- I/O ケーブルは 1.5 m までのシールドタイプの LAN ケーブル（ストレート接続）を使用してください。
- I/O ポートは LAN ポートとは異なる信号仕様で通信します。
- I/O ポートは外部電源の状態を読み出したり、アプリケーションから外部電源を制御するために使用します。
- 商用電源の瞬時電圧低下や瞬時停電の影響を避けるためには、本機を利用するシステム全体に対して UPS で無停電化する必要があります。

## 本機から外部電源を取り外す場合

- 1 操作パネルまたはウェブインターフェースで本機をシャットダウンする
- 2 [電源スイッチのない外部電源（動作確認済み外部電源の一部機種を含む）を使用の場合]  
外部電源の電源を切るために AC 電源ケーブルを取り外す  
[電源スイッチのある外部電源を使用の場合]  
外部電源の取扱説明書を参照して外部電源の電源を切り、AC 電源ケーブルを電源コンセントから外す
- 3 本機と外部電源から I/O ケーブルを取り外す
- 4 本機から DC 電源ケーブルを取り外す
  - ① A の部分を矢印方向に回す



- ② A の部分を回したまま、矢印の方向に DC 電源ケーブルを引っ張り、取り外す



- ③ 外部電源から DC 電源ケーブルを取り外す
  - 詳しくは、外部電源の取扱説明書を参照してください。

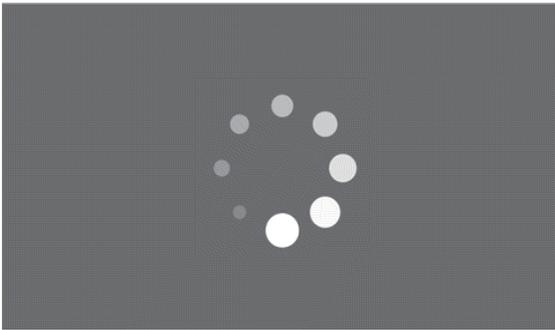
- 必ず外部電源の AC 電源ケーブルを取り外してから DC 電源ケーブルを取り外してください。
- DC 電源ケーブルを取り外すときは、上図の A の部分以外を回さないでください。

## 起動

設置後、前面の電源ボタン（5 ページ） を押し、本機を起動してください。

- 起動中、操作パネルに下記の画面が表示されます。起動中は操作パネルを触らないでください。

起動中の操作パネル



- モジュール構成によっては、下記の画面に切り替わりますが、操作パネルには触らないでください。

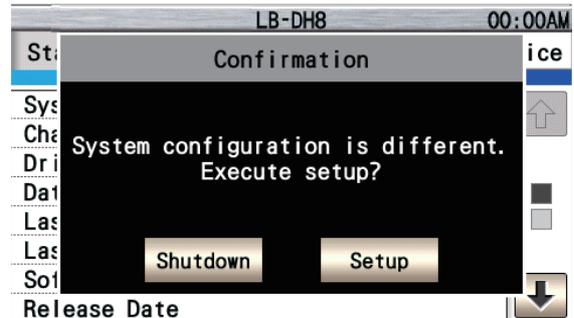


本機を初めて設置する場合には、上記画面に引き続き、以下のメッセージが表示されることがあります。「Update」を押してください。



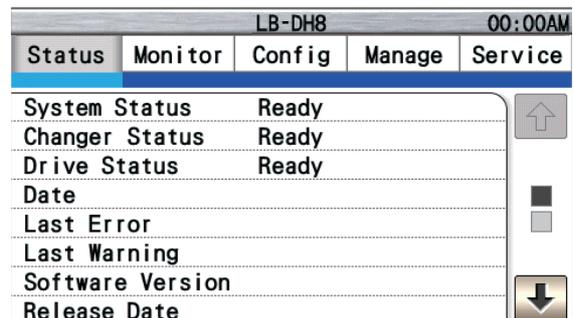
- ベースモジュールと他のモジュールとでソフトウェアのバージョンが異なっている場合にのみ表示されます。全モジュールのソフトウェアのバージョンが一致している場合には、表示されません。
- 「Update」を押すと、全モジュールのソフトウェアのバージョンが、ベースモジュールと同じバージョンになるようにソフトウェアアップデートが行われます。
- アップデート完了後に本機は再起動され、起動中の画面が表示されます。

本機を初めて設置する場合、起動中に下記の画面が表示されます。「Setup」を押してください。自動でモジュール構成（モジュール数、モジュール種別・位置）の確定処理を行います。



起動完了後、操作パネルに「Status」メニュー画面が表示されます。

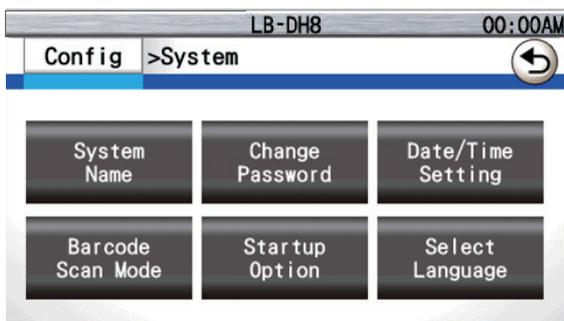
- 初めて本機を起動すると、パスワードの変更を促すポップアップが表示されます。



本機を使用するために、本機前面の操作パネルまたはウェブインターフェースを操作し、初期設定を行います。(37ページ)

本機操作パネルの操作方法については、「操作パネルでの基本操作」を参照してください。ウェブインターフェースの操作方法についてはオペレーターガイドを参照してください。

- 各項目の詳細については「パネルメニュー体系」(41ページ)を参照してください。
- 初めて操作パネルを使用するときは、初期パスワードの変更を行ってください。初期パスワード (YrN9fQ>k) を変更しなければ、ウェブインターフェースを使用できません。



- パスワードは忘れないように管理してください。
- パスワードが第三者に知られた場合、不正に利用される可能性があります。パスワードはお客様ご自身の責任で管理してください。当社では不正利用された場合の責任は負いません。
- 当社が検証していない接続機器、ソフトウェアなどとの意図しない組み合わせによる誤動作やハングアップなどから生じた損害に関して、当社では責任を負いません。

## 操作パネルでの基本操作

### ◆ 操作パネルへのログイン

- 操作パネルで「Monitor」、「Config」、「Manage」のメニューを使用するにはパスワードを入力してログインする必要があります。
- ログイン後、1時間経過すると、自動的にログアウトします。
- ログアウトするには「Manage」→「Enable Password Lock」の順に選択してください。

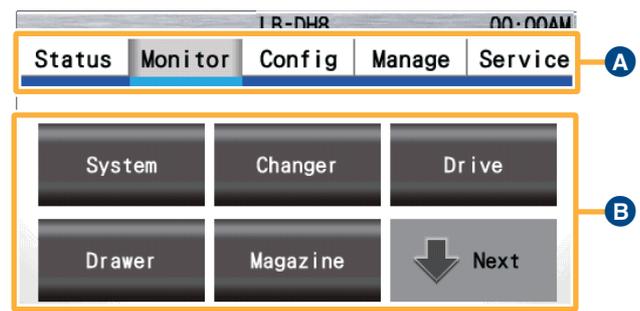
#### お知らせ

- 操作パネルは、1時間経過すると、自動的にログアウトされます。
- 「Status」メニューはログインをしなくても確認できます。
- 「Service」メニューは保守用のメニューですので、使用することはできません。
- 操作パネルでログイン中はウェブインターフェースへログインをすることはできません。ウェブインターフェースでログイン中に操作パネルでもログインをすると、ウェブインターフェースは自動的にログアウトされます。

### ◆ 基本操作

操作パネルをタッチして項目を選び、操作を行います。同時に2か所以上にタッチしないでください。項目をタッチすると「ピッ」と音がし、項目に応じた画面の切り換えや設定、処理などが行われます。

メニュー画面



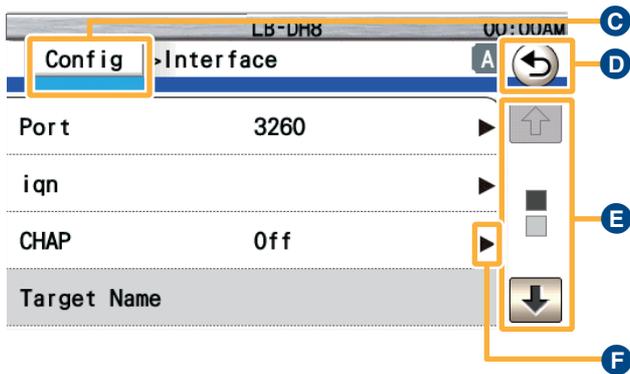
#### A メニュータブ

選択して、設定項目 (B) を切り換えます。

#### B 設定項目

選択して、各設定画面に移動します。(41ページ)

設定画面



**C** メニューボタン

タッチすると、表示されているメニューに戻ります。

**D** 戻るボタン

タッチすると、ひとつ前の画面に戻ります。

**E** スクロールボタン

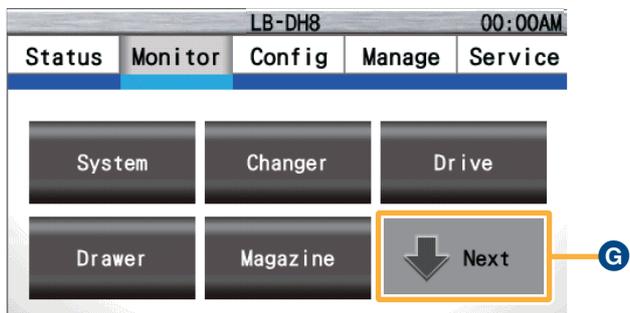
「↑」、「↓」をタッチすると、画面がスクロールします。

- 「↑」、「↓」の間の「■」の数はページ数を表し、「■」は現在のページ位置を表します。

**F** 入力ボタン

「▶」が表示されている項目をタッチすると、入力画面を表示します。

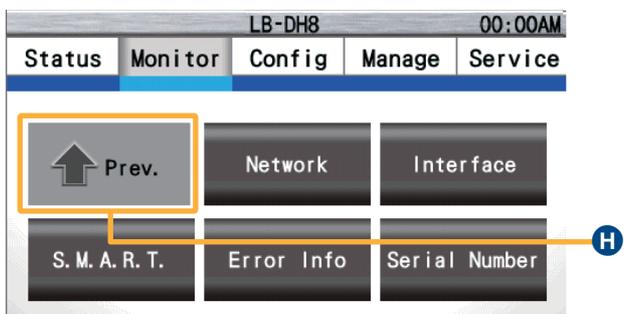
メニュー画面



**G** 次のメニューへのボタン

次の設定項目を表示します。

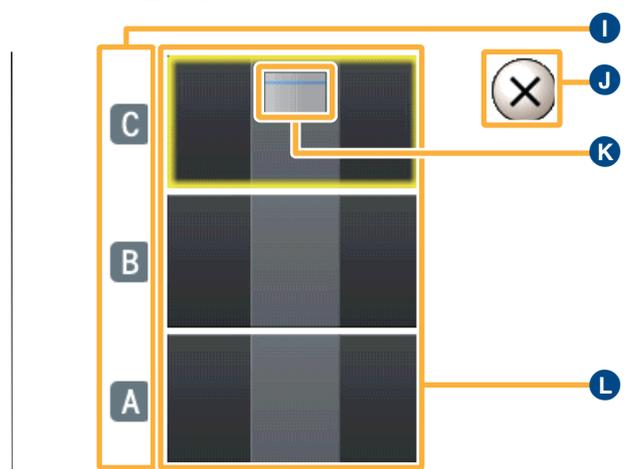
メニュー画面



**H** 前のメニューへのボタン

前の設定項目を表示します。

モジュール選択画面



**I** モジュール名

各モジュールの名前を表示します。

**J** キャンセルボタン

タッチすると、ポップアップを閉じ、前メニューに戻ります。

**K** ベースモジュール

ベースモジュールの位置を表します。

**L** モジュール選択ボタン

モジュールを選択すると、次画面を表示します。

- グレー表示されているモジュールは選択できません。

## 数値、文字の入力

数値または文字を入力する場合、ソフトウェアキーボードが表示されます。

入力内容に応じて表示されるソフトウェアキーボードは変わります。

ソフトウェアキーボードを使用して数値または文字を入力してください。

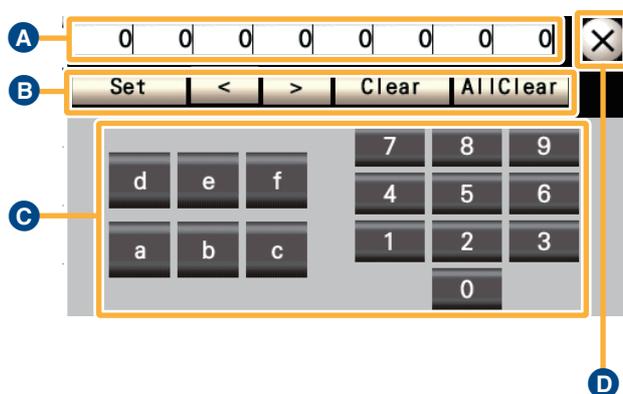
### 英数文字入力の場合

小文字入力画面



### 16進数での入力の場合

16進数での入力の場合は a～f と数字のソフトウェアキーボードが表示されます。



#### A 文字入力欄

入力した文字が表示されます。

#### B 各種操作ボタン

< : 入力位置を 1 文字 / マス左へ移動します。

> : 入力位置を 1 文字 / マス右へ移動します。

Clear : 入力位置の前の 1 文字を消去します。

長押しをするとすべての文字を消去

abc : キーボードを小文字アルファベットに切り換えます。

ABC : キーボードを大文字アルファベットに切り換えます。

123 : キーボードを数字に切り換えます。

#\$% : キーボードを記号に切り換えます。

Set : 入力した内容で設定します。

AllClear : 文字入力欄の内容をすべて消去します。

#### C ソフトウェアキーボード

押したボタンの内容が文字入力欄に入力されます。

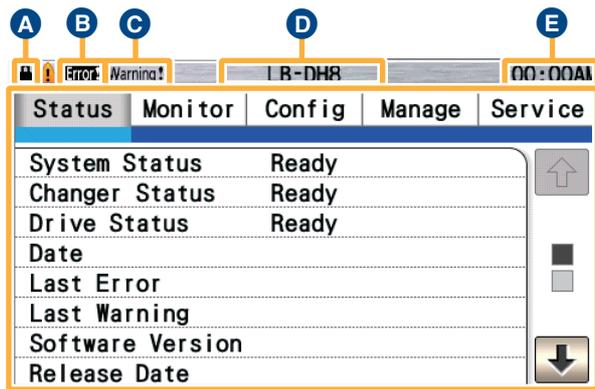
#### D キャンセルボタン

文字入力欄の内容は反映せずに元のメニューに戻ります。

#### E Set

入力した内容で設定します。

## 画面の基本構成



メニュー

### ステータスバーの表示について

画面上部のステータスバーにシステムの現在の状態や時刻など (A ~ E) を表示します。

#### A パスワードロックの状態

パスワードロック状態を表します。

- 「Status」メニュー：パスワードを入力しなくても見ることができます。
- 「Monitor」「Config」「Manage」メニュー：押すとパスワード入力画面になります。  
パスワードを入力すると各メニューを使用できます。
- 「Service」メニュー：保守サービス担当者用のパスワードが設定されていて、操作することはできません。

#### パスワードロック解除状態 (アイコンなし) の場合

パスワードロック状態に戻すには、「Manage」→「Enable Password Lock」の順に選択してください。

- ログイン後、1 時間経過すると、パスワードロック状態になります。

#### B エラー発生の状態

エラー発生の状態を表します。(点滅表示)

- 正常時は表示されません。
- エラーコードを確認し、オペレーターガイドの「エラーコード表」を参照して対処してください。

#### C 警告発生の状態

警告発生の状態を表します。(点灯表示)

- 正常時は表示されません。
- 警告コードを確認し、オペレーターガイドの「警告コード表」を参照して対処してください。

#### D システム名

システム名を表示します。

- 「Config」メニューから設定することができます。

#### E 現在時刻

現在時刻を表示します。

- 時刻設定で設定した形式で表示します。
- 「Config」メニューから設定することができます。(38 ページ)

### メニュー表示について

メニューまたは情報を表示します。タッチして操作してください。

## 初期設定項目

必要に応じて下記項目を設定してください。

### ◆ 設定必須項目

パスワード設定：「Config」 → 「System」 → 「Change Password」 (38 ページ)

日時設定：「Config」 → 「System」 → 「Date/Time Setting」 (38 ページ)

インターフェースタイプ：「Config」 → 「Interface」 (39 ページ) (iSCSI インターフェースモデルのみ)

以下の設定の詳細については、オペレーターガイドを参照してください。

### 電子メール通知を使用する場合

ホスト名の設定：「Config」 → 「Email Notice」 → 「Host Name」

ドメイン名の設定：「Config」 → 「Email Notice」 → 「Domain Name」

ネットワークの設定：「Config」 → 「Network」

E メール通知の設定：「Config」 → 「Email Notice」

### SNMP を使用する場合

システム名の設定：「Config」 → 「System」 → 「System Name」

ホスト名の設定：「Config」 → 「Email Notice」 → 「Host Name」

ドメイン名の設定：「Config」 → 「Email Notice」 → 「Domain Name」

ネットワークの設定：「Config」 → 「Network」

保守サービス担当の連絡先名：「Config」 → 「Support Contact」 → 「Support Name」

保守サービス担当の電話番号：「Config」 → 「Support Contact」 → 「Support Phone」

保守サービス担当の E メールアドレス：「Config」 → 「Support Contact」 → 「Support Email」

SNMP の設定：「Config」 → 「SNMP」

### ◆ 設定推奨項目

以下の設定の詳細については、オペレーターガイドを参照してください。

システム名の設定：「Config」 → 「System」 → 「System Name」

ホスト名の設定：「Config」 → 「Email Notice」 → 「Host Name」

ドメイン名の設定：「Config」 → 「Email Notice」 → 「Domain Name」

RAID レベル設定：「Config」 → 「Set RAID Level」 → 「Select Default RAID Level」

保守サービス担当の情報：「Config」 → 「Support Contact」

### 初期設定後、実施を推奨する項目

設定内容の保存：「Config」 →

「Save/Restore」 → 「Save Config File」

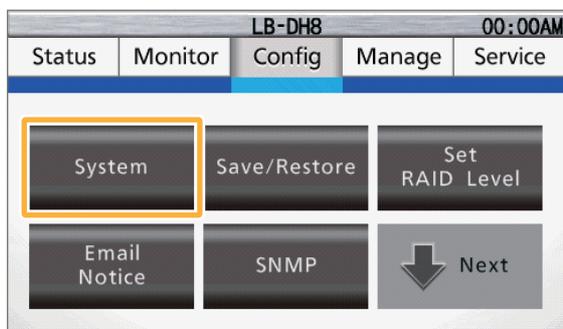
- 初期設定終了後、設定内容の保存を推奨します。

## 設定必須項目の設定方法

### ◆ パスワード設定 / 日時設定

#### Config メニュー

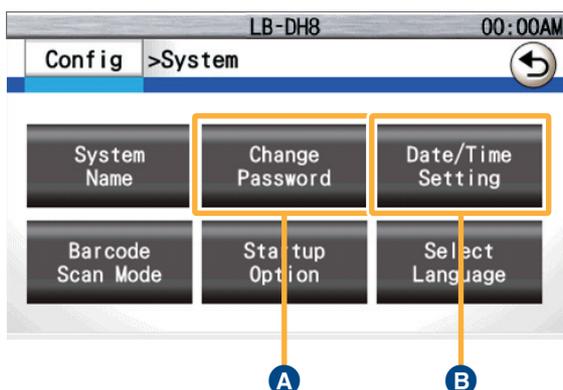
各項目を選択して、各種設定を行います。



#### System

本機の基本情報を設定します。

- 「Save」または「Set」を押すと操作が実行されます。



#### A Change Password

本機の管理者パスワードを設定します。

- パスワードは 8 ～ 11 文字で、英字 (大文字・小文字どちらでも可) と数字、記号を各 1 文字以上入れてください。
- パスワードは忘れないように管理してください。
- 初期値は「YrN9fQ>k」です。

#### B Date/Time Setting

本機の日時設定に関連する項目を設定します。

##### Date/Time

###### Time Server

タイムサーバーの使用有無を設定します。

- **On** : タイムサーバーを使用して、時刻を同期します。同期間隔は 256 秒です。
- **Off** : タイムサーバーを使用しません。

###### Time Server Address

タイムサーバーのアドレスを入力します。

- IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、完全修飾ドメイン名 (FQDN ・ 最大 256 文字) で入力します。

##### Date/Time

年月日と時刻を設定します。

- 「Time Server」が「Off」の場合に設定可能です。

##### Time Zone DST

###### Time Zone

タイムゾーンの設定をします。

- タイムゾーンの変更に応じて年月日と時刻が設定されます。

###### DST

サマータイムの使用有無を設定します。

- サマータイムの設定を自動で開始や終了はしません。ご使用の地域に応じてその都度設定してください。

**On** : 時刻を 1 時間進めます。

**Off** : 通常の時刻設定を使用します。

##### Date/Time Format

###### 12h/24h

時刻の表示形式を設定します。

**12h** : 12 時間表示に切り換えます。

**24h** : 24 時間表示に切り換えます。

###### Date Format

年月日の表示形式を設定します。

**YYYY/MM/DD** : 年 / 月 / 日表示に切り換えます。

**MM/DD/YYYY** : 月 / 日 / 年表示に切り換えます。

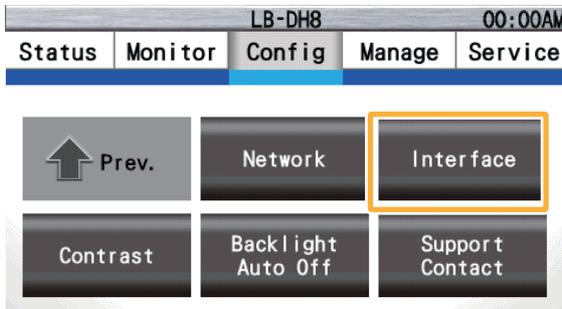
**DD/MM/YYYY** : 日 / 月 / 年表示に切り換えます。

## ◆ インターフェースタイプ

iSCSI インターフェースモデルは、iSCSI インターフェースポートの設定をします。(SAS、FC インターフェースモデルの場合、設定はありません。)

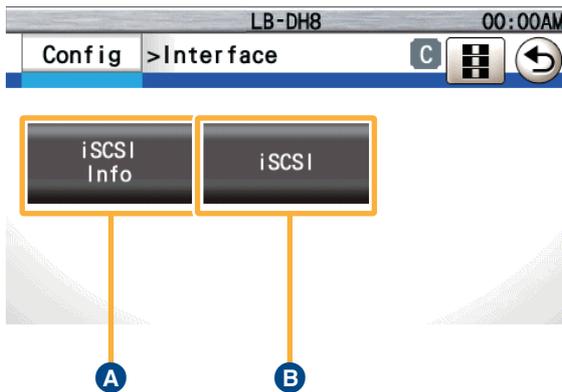
### Config メニュー

各項目を選択して、各種設定を行います。

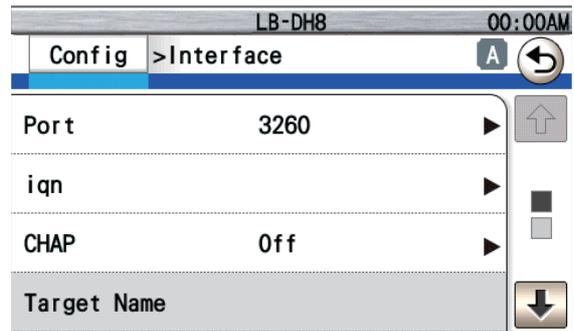


### Interface

- モジュールを選択してください。(P34)
- 「Save」または「Set」を押すと操作が実行されます。



### A [iSCSI Info]



#### Port

iSCSI ポートを設定します。

- 10進数で0～65536の間の数字を入力します。

#### iqn

ノード名を設定します。

- 223文字まで入力できます。

#### CHAP

CHAP 認証について設定します。

**Off** : CHAP 認証を無効にします。

**Target Only** : 一方向の CHAP 認証を行います。

- 「Target Name」、「Target Secret」を使用してターゲットであるデータアーカイバーがイニシエータを認証します。

**Target + Initiator** : 双方向の CHAP 認証を行います。

- 「Target Name」、「Target Secret」を使用してターゲットであるデータアーカイバーがイニシエータを認証し、「Initiator Name」、「Initiator Secret」を使用してターゲットであるデータアーカイバーがイニシエータに接続を試みます。

#### Target Name

ターゲット名を設定します。

- 223文字まで入力できます。
- 「CHAP」が「Target Only」または「Target + Initiator」の場合に入力可能です。

#### Target Secret

CHAP シークレットを定義します。

- 12～16文字で入力します。
- 「CHAP」が「Target Only」または「Target + Initiator」の場合に入力可能です。

#### Initiator Name

イニシエータ名を設定します。

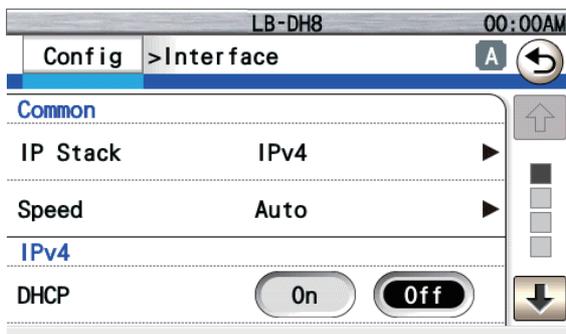
- 223文字まで入力できます。
- 「CHAP」が「Target + Initiator」の場合に入力可能です。

#### Initiator Secret

イニシエータの CHAP シークレットを入力します。

- 12～16文字で入力します。
- 「CHAP」が「Target + Initiator」の場合に入力可能です。

## B [iSCSI]



### Common

プロトコルスタック共通の設定を行います。

#### IP Stack

使用する IP スタックを設定します。

**IPv4** : IPv4 で通信します。

**IPv6** : IPv6 で通信します。

**IPv4+6** : IPv4 および IPv6 で通信します。

#### Speed

LAN のリンク速度を表示します。

**Auto** : 自動的に設定します。

**100Mbit/Full** : 100 Mbit 全二重通信に設定します。

**1Gbit/Full** : 1 Gbit 全二重通信に設定します。

**10Gbit/Full** : 10 Gbit 全二重通信に設定します。

### IPv4

IPv4 についての設定を行います。

- 「IP Stack」設定が「IPv4」または「IPv4+6」の場合に設定できます。

#### DHCP

DHCP の設定を行います。

**On** : DHCP を有効にします。

**Off** : DHCP を無効にします。

#### IPv4 Address \*

IPv4 アドレスを設定します。

- 10 進数で入力します。

#### Netmask \*

ネットマスクアドレスを設定します。

- 10 進数で入力します。

#### Gateway \*

ゲートウェイアドレスを設定します。

- 10 進数で入力します。

### IPv6

IPv6 についての設定を行います。

- 「IP Stack」設定が「IPv6」または「IPv4+6」の場合に設定できます。

#### Stateless Auto Config

ステートレス自動設定の設定を行います。

**On** : ステートレス自動設定を有効にします。

**Off** : ステートレス自動設定を無効にします。

#### DHCP

DHCP の設定を行います。

**On** : DHCP を有効にします。

**Off** : DHCP を無効にします。

#### IPv6 Address (Static) \*

IPv6 アドレスを設定します。

- 16 進数で入力します。

#### Gateway \*

ゲートウェイアドレスを設定します。

- 16 進数で入力します。

#### Prefix Length \*

IP アドレスの接頭部の長さを設定します。

- 10 進数で 0 ~ 128 の間の数字を入力します。

※ 「DHCP」が「Off」の場合、設定が可能です。

# パネルメニュー体系

メニュー項目	内容	
Status	本機の動作状態などを表示します。	
Monitor	本機の詳細情報や設定を表示します。	
	System	本機のシステム情報を表示します。
	Changer	本機のチェンジャーユニットについての情報を表示します。
	Drive	本機のドライブシステムについての情報を表示します。
	Drawer	マガジンドロワーの開閉状態を表示します。
	Magazine	本機に格納されているマガジンの情報を表示します。
	Network	ネットワークの設定を表示します。
	Interface	本機に搭載されている SAS、iSCSI、FC のインターフェースポートの設定を表示します。
	S.M.A.R.T.	本機の交換を推奨する部品の情報などを表示します。
	Error Info	本機で発生したエラーまたはワーニングに関する履歴を表示します。
Serial Number	各モジュールのシリアル番号を表示します。	
Config	各項目を選択して、各種設定を行います。	
	System	本機の基本情報を設定します。
	Save/Restore	設定内容の保存・復帰や初期状態への復帰を行います。
	Set RAID Level	RAID レベルを設定します。
	Email Notice	電子メール通知の設定を行います。
	SNMP	SNMP の設定を行います。
	Network	ネットワークの設定を行います。
	Interface	本機に搭載されている iSCSI のインターフェースポートの設定を行います。
	Contrast	操作パネルのコントラストを設定します。
	Backlight Auto Off	操作パネルのバックライトを自動消灯する時間を設定します。
Support Contact	保守サービス会社の情報を設定します。	
Manage	本機の操作を行うことができます。	
	Open Drawer	マガジンドロワーのロック解除を行います。
	Diagnostic	自己診断を行います。
	Enable Password Lock	パスワードロック状態にします。
	Perform Inventory	マガジン情報の再取得を行います。
	Shutdown	本機をシャットダウン・リブートします。
	Update Software	本機のソフトウェアを更新します。
Save Log Dump	本機のログを取得します。	
Service	本機のメンテナンスなどを行うためのメニューです。 保守サービス担当者用のパスワードが設定されており、操作することはできません。	

## 静電気対策

静電気による本機の故障を防止するため、以下のことを守ってください。

- 輸送や長期保管の際は、静電気防止用のシートで覆った上で梱包箱に入れて取り扱い、なるべく手で直接触れることは避けてください。
- 外部コネクタ（電源、I/F）の金属端子は、直接手で触れたり、帯電したものを近づけたりしないでください。
- 外部コネクタにケーブルを抜き差しする際には、アースバンドを着用する、事前に大きな金属製のじゅう器を触るなど、適切に静電気対策を行うことを推奨します。
- 外部コネクタに接続されたケーブルを帯電するものの近辺に置かないでください。